

変わろう・変えよう・産業と暮らし
第4期高知県産業振興計画 Ver.2

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)
幡多地域抜粋版

令和3年2月

高 知 県

7 幡多地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

高知県の西南部に位置する当地域では、温暖な気候や黒潮の恵などの自然環境を生かしながら、地域の基幹産業である第一次産業を中心とした産業づくりが展開されてきました。

一方、幡多地域全体の人口は、平成27年の国勢調査では86,884人と、この5年間で7,518人減少(△8.0%)しており、このような人口減少は、労働力の減少や地域経済の縮小を引き起こし、社会サービスの低下などの様々な社会基盤の弱体化を招くなど地域の衰退に拍車をかけています。

こうした負の連鎖(スパイラル)を断ち切り、人口減少に歯止めをかけるためには、若者が安心して生活していくための雇用の場づくりや、安定的な所得の確保が不可欠になっています。

このため、第一次産業の生産基盤づくりをはじめ、農林水産物といった地域資源を生かした特産加工品の開発や磨き上げ、自然環境を生かした着地型観光の商品造成など、地域経済の活性化に向けた取り組みを進めています。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、幡多地域においてもホテル・旅館、や観光施設、飲食業など幅広い分野の事業者において来客数、売上ともに甚大な影響が出ています。

産業分野別にみますと、まず、農業分野では、野菜、花き、果樹、水稻などが栽培されていますが、国内外の産地間競争の激化や価格の低迷、生産コストの上昇などにより、産地の維持が課題となっています。

林業分野では、森林の小規模所有者の集約化に時間等を要することや、林道・作業道の開設の遅れ、長引く木材価格の低迷などにより、依然として厳しい状況が続いています。

水産業分野では、これまで豊かな漁場に恵まれ、多種多様な漁船漁業や魚類養殖業が営まれてきましたが、魚価の低迷や資材費の高騰などが漁業者の所得に影響を及ぼしています。また、四万十川のアユや川エビといった天然資源の減少も、年々、深刻化しています。

商工業分野では、郊外への大規模小売店を中心とした新たな商業集積などの影響を受け、圏域商業の拠点的な役割を果たす四万十市をはじめ、市街地の小売業を取り巻く環境は厳しさが増えています。また、製造業や建設業の総生産額等は、依然として低迷しています。

こうしたことから、幡多地域の産業界の連携を一層促進し、観光分野の取り組みなどとも融合させ、中心市街地等の魅力づくりや様々なイベントの実施、情報発信を行いながら、全国に通用し、競争力のある商品づくりなどに取り組んでいます。

観光分野では、幡多地域の持つ「自然」や「食」、「歴史文化」、「人柄」を生かした滞在型・体験型観光やスポーツツーリズムの取り組みが着実に進んでいます。

また、県、幡多6市町村、観光関係団体・事業者など官民一体のもと、令和元年度から様々な施設の開業が進められている竜串地区をはじめとして、観光資源を生かした体験メニューの造成・磨き上げを進めるとともに、地域全体で連携を図りながら観光地づくりに取り組むことで、国内外からの誘客促進に向けた取り組みを進めています。

今後もコロナ感染者の状況にも注視し、新たな生活様式の充実にも配慮しつつ、地域産業の活性化を目指し、産業振興計画の目標達成に向け官民協働で取り組みを進めていきます。

(2) 地域アクションプランの概要

本計画では、引き続き、各種助成制度やアドバイザー制度、土佐 MBA などの学びの場といった、事業者のスキルアップを支援するメニューを提供するとともに、市町村や関係団体等との連携を密にしながら、さらなる取り組みのバージョンアップと加速化を図り、新たな雇用創出や地域住民の所得向上に繋げていきます。

まず、様々な産業づくりの基盤であり、地域の基幹産業となっている第一次産業の振興に引き続き取り組んでいきます。また、第一次産業の素材を効果的に活用した加工品づくりを推進し、そのための生産基盤の充実・拡大や HACCP 対応による衛生管理の向上、地産外商の一層の推進に組み込み、販路拡大、新たなものづくりなどを後押ししていきます。観光面においては、これまでの取り組みを更に強化し、「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」と連動した自然体験メニューの磨き上げや拡充、スポーツツーリズムの推進、さらに中心市街地の活性化や魅力ある「道の駅」といった交流拠点づくりなどに取り組むことで、滞在型観光の推進や交流人口の拡大を図っていきます。

農業分野では、ユズ、直七、ブシュカンなどの柑橘類や栗といった、地域特性を生かした品目の産地づくりを推進します。また、加工用の施設整備や機械導入により、農産物加工品の生産拡大と新商品の開発を進めるとともに、地産外商に向けた販売体制の強化に取り組めます。さらに、地域外からの就農体験や研修生の受入れに積極的に取り組むことで、移住等による農業後継者を育成していきます。畜産関係では、「四万十牛」や「土佐極鶏 あしずりキング」の生産及び販売の拡大を通して、地域産業の活性化につなげていきます。

林業分野では、山林資源を活用した土佐備長炭の生産の拡大、生産技術及び品質の向上に取り組むとともに、関係機関の連携による地域で持続可能な原木の確保に向けた取り組みを継続して推進します。

水産業分野では、メジカ（宗田節）、養殖クロマグロ、ブリ（養殖含む）、タイ（養殖含む）といった、地域資源を生かした地域産業クラスターを目指す取り組みを継続して進めることで、安定的に収入が確保できる仕組みを確立し、後継者の育成・確保に繋げていきます。

商工業分野では、引き続き、地域資源を活用した加工品づくりを進め、生産管理の高度化や新たな商品開発、販売拡大などに取り組めます。また、各地域の道の駅や四万十市天神橋商店街の拠点施設「はれのぼ」などにおいて、定期的なイベントの実施などによる賑わいづくりや地元独自の農産物等の販売を行うなどの取り組みを、より一層強化し、売上アップと交流人口の増大を図ることで、地域への経済的な波及効果を上げていきます。

また、当地域は、首都圏など大消費地から遠く、経済基盤が弱い零細事業者も多いことから、事業者の商品力の強化はもとより、メディアを通じた情報発信、アンテナショップや各種催事、商談会、県外の飲食店と連携した地域産品の販路拡大、オンラインでの商談会など、あらゆるチャネルを活用した外商活動を展開していきます。

観光分野については、新型コロナウイルスの影響により観光客の減少が続いており、ワーケーションの推進やスポーツ合宿受入ガイドラインの作成などコロナ禍における新たな受入対策の取り組みなどを進めております。

また、「リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～」と連動した自然体験観光のプロモーションや土佐西南大規模公園の人工芝グラウンドなどを生かした地域全体のスポーツツーリズムもさらに推進し、誘客促進につなげていきます。

具体的には、幡多の広域観光を推進する（一社）幡多広域観光協議会の広域観光推進部会を中心に地域が一体となった観光地づくりやホームページ等を活用した情報発信に

取り組み、広域の周遊や長期滞在が可能な魅力ある観光地づくりを目指します。

また、新足摺海洋館「SATOUMI」をはじめ拠点施設の整備が進む土佐清水市竜串において、地域の事業者等が連携した周遊の仕組みづくりや地元食材等の消費拡大に取り組みます。

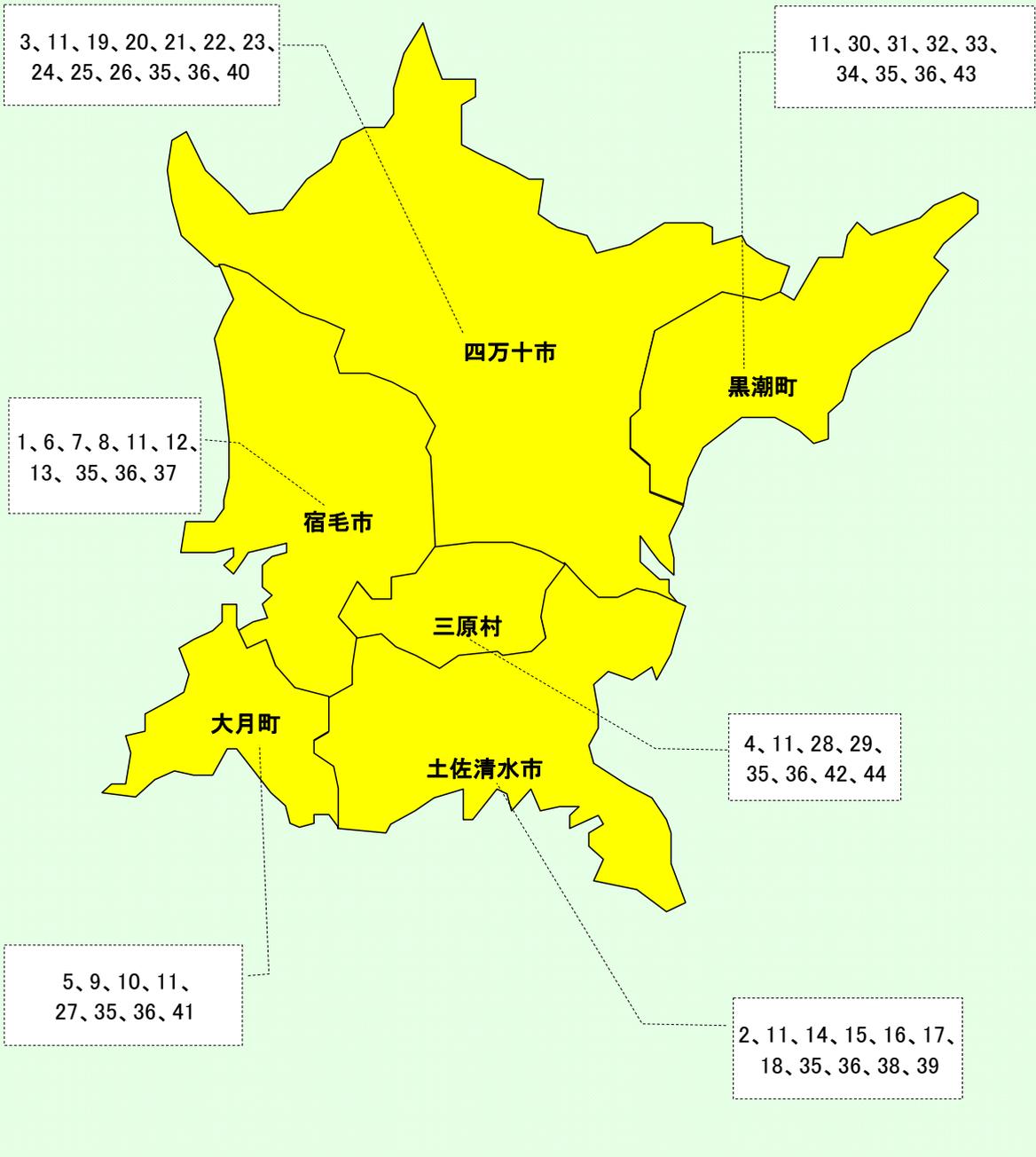
このような各分野の取り組みに加えて、研修事業や移住促進などを通じて、産業の下支えをし、地域活性化の源になる人材の育成や担い手の確保などに取り組んでいきます。また、県、市町村、地域の事業者、団体等が一体となり、地域に根差した様々な地域産業クラスターを生み出していきます。

(3) 具体的な取り組み

No.	項 目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町
1	幡多産柑橘等を活用した新たな事業展開による販路拡大等の推進	●					
2	土佐極鶏あしずりキングの生産加工・流通・販売の推進		●				
3	四万十ぶしゅかんの産地形成とブランド化			●			
4	三原村ユズ産地化計画の推進					●	
5	大月町内の持続可能な山林資源を活用した製炭業の推進				●		
6	宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト	●					
7	すくも湾漁協による水産物の加工・販売	●					
8	宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売	●					
9	宿毛湾のキビナゴ加工商品等の販売拡大				●		
10	宿毛湾の干物等水産加工品の販売拡大				●		
11	幡多地域産品販売体制の構築	●	●	●	●	●	●
12	宿毛市特産直七の生産・加工・販売の促進	●					
13	幡多地域で昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等の推進	●					
14	土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進		●				
15	宗田節だし加工商品の販路拡大の促進		●				
16	幡多地域産品を活用した加工商品の開発販売と流通システムの構築		●				
17	宗田節の一般向け削り加工商品の販売促進と体験観光の強化		●				
18	新たな製造方式の導入による宗田節等の生産・販売の強化		●				
19	西土佐産栗の地産外商の推進			●			
20	四万十牛の生産・加工・販売体制の強化			●			
21	売り出せ西土佐プロジェクト推進(拠点ビジネス)			●			
22	四万十地域の素材を活用した加工商品の外商強化			●			
23	幡多地域の農水産物を活用したペット関連商品の開発・販売拡大			●			
24	四万十の地域食材を活用した商品開発・製造・販売の推進			●			
25	幡多地域産品を活用した冷凍加工食品の開発・製造・販売の推進			●			
26	地域商業活性化拠点「はれのば」を核とした中心市街地の活性化			●			
27	道の駅「ふれあいパーク・大月」を基盤とした産業振興と賑わいの創出				●		
28	三原村のどぶろくによる地域活性化					●	
29	三原産トマトを中心とした加工・販売の推進					●	
30	黒潮町産天日海塩を活用したビジネスの推進						●
31	黒潮町産天日塩の販売拡大及び地域ブランド化の推進						●
32	佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進						●
33	黒潮町の地域産品を中心とした水産加工品等の販売促進						●
34	黒潮町の地域資源を中心とした防災関連商品づくりの推進						●
35	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進	●	●	●	●	●	●
36	幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化	●	●	●	●	●	●
37	宿毛市の地域資源を活用した観光振興	●					
38	竜串地域の観光再生構想の推進		●				
39	土佐清水まるごと戦略観光の展開		●				
40	四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進			●			
41	大月町の地域資源を活用した観光振興				●		
42	三原村の魅力をいかした滞在型・体験型観光推進					●	
43	黒潮町の地域資源を活用した観光推進						●
44	集落活動センターやまびこによる三原村の産業振興					●	



【幡多地域】



AP名 (実施地域)	No.1 幡多産柑橘等を活用した新たな事業展開による販路拡大等の推進 (宿毛市)
実施主体	(有)成田果樹園
APへの位置づけ	H28.9月
事業概要	地元産の柑橘等を利用した新たな事業を展開し、新規顧客やリピーターを獲得していくとともに、時代の変化と市場のニーズに対応した柑橘の販売方法を確立し、販路を拡大していくことで、売上アップと新たな雇用の創出に繋げていく。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	5,420万円 (H30)	5,337万円		7,500万円

会計年度：8月～7月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新事業の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、フェイスブックを開設 (H28) ・シトラスビューティープログラムワークショップの開催4回 (H28～) ・小規模事業者持続化補助金 (H29～30) 及び県産振アドバイザー制度 (H30) を活用し新商品開発、販促物のリニューアルを実施 <p>◆既存商品の販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内販促活動 H28～R2：2件 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿毛市ふるさと納税返礼品採用 (H28～) ・新商品「コールドプレスジュース」及びパンフレット、ランディングページ完成 (H30) ・「旅色」HPに商品掲載 (R2) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな顧客及びリピーターファンの獲得 ・時代の変化に対応した販売方法の確立

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆新事業の展開	新商品開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)成田果樹園： コンセプトづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを獲得するための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆既存商品の 販路拡大	新商品のプロモーション活動				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)成田果樹園： ホームページの充実、商談会等への出展、個人飲食店等への販促活動 ●県（地域本部等）： 販売戦略、プロモーション戦略づくりへのアドバイスを獲得するための産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆既存商品の 販路拡大	新規顧客獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)成田果樹園： 地域イベントの企画・参加、ニーズに応じた発注対応、有機栽培及び販路拡大、減農薬栽培への継続的な取り組み、加工施設・設備等の整備検討 ●県（地域本部等）： 各イベントに関する情報提供、その他各種支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.2 ^{きわみどり} 土佐 極 鶏あしずりキングの生産加工・流通・販売の推進 (土佐清水市)
実施主体	◎(株)足摺農園、土佐清水市
AP への 位置づけ	H29.4月
事業概要	土佐清水産の長期肥育鶏「土佐極鶏 あしずりキング」のブランド化を目指して、鶏の生産・加工体制をさらに強化するとともに、県内外での販売流通をさらに推進することにより、地域連携による、食の魅力を生かした観光振興と地域経済の活性化に繋げていく。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
(1) あしずりキングの生産羽数	1,950 羽 (H30)	2,400 羽		7,438 羽
(2) あしずりキングの加工出荷額	519 万円 (H30)	1,121 万円		3,375 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆流通・販売の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西及び土佐清水市内への本格出荷開始 (H30) ・「第 8 回食の商談会 (地産外商公社、東京)」など 県外での商談会への出展 (R 元) ・「高知県産品商談会 (地産外商公社、高知市)」 県内での商談会への出展 (R 元～) ・県広報番組で取り組みを紹介 (H30) ・産業振興アドバイザーを導入して、営業時の提案内容 (調理方法、メニュー例) を整理 (H29:1 回) 及び 販売戦略・販路開拓ノウハウ取得 (R 元:3 回) ・名称の商標登録完了 (R 元) ・土佐極鶏あしずりキング推進協議会の設立 (H30) (構成: (株)足摺農園、JA 高知県三崎支所、土佐清水商工会議所、高知県、土佐清水市 (事務局)) ・イベントであしずりキングを使用した料理を提供(R2) <p>◆生産 (肥育) 体制の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得 (R 元) 	<p>◆加工処理体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工処理施設の整備 (H30.3 月) →H29 産振補助金の活用 (事業費 2,535 万 6 千円) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西への出荷拡大 (R 元) H30 : 100 羽/月 → R 元 : 200 羽/月 ・県内取引先の拡大 H29 : 0 件 →R 元 : 6 件 ・ふるさと納税向け加工商品の開発 (H30) ・土佐清水ワールドでのメニュー化 (R 元) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・肥育技術、加工処理技術のさらなる向上 ・食肉卸会社と連携した、県外(主に首都圏、関西)での販路拡大 ・県内、特に土佐清水市内での販路拡大や観光資源化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆流通・販売の拡大	<p>市内（県内）及び県外での販売の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> 市内の飲食・宿泊事業者への営業、県内取引先開拓のための商談会への出展 販売連携先（食肉卸会社）との共同による県外取引先開拓のための商談会への出展 ●土佐清水市： <ul style="list-style-type: none"> 市内の飲食・宿泊事業者と(株)足摺農園とのマッチング、県内商談会への出展同行 販売連携先（食肉卸会社）と(株)足摺農園との連携強化を支援、県外商談会への出展同行 ●土佐清水市商工会議所： <ul style="list-style-type: none"> 経営全般に関する助言 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザー活用による販売拡大に向けた支援、県アンテナショップ（物販、レストラン）の活用に向けた仲介 				
	<p>推進協議会を中心とする、情報発信の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市（推進協議会）： <ul style="list-style-type: none"> 推進協議会の運営、協議会構成員のそれぞれのチャンネルを生かした情報発信、情報発信資料（チラシ、のぼり旗等）及びITコンテンツを活用したブランドの情報発信 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 推進協議会への参加によるアドバイス、情報提供、地産外商公社といった関係機関への橋渡し 				
◆生産（肥育）体制の向上	肥育ノウハウの蓄積	肥育マニュアルの作成及び生産者の拡大			
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> 肥育に関する記録の蓄積 ●県（西部家畜保健衛生所等）： <ul style="list-style-type: none"> 肥育に関する助言 	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> 肥育マニュアルの作成、新規参入希望者への肥育の助言 ●土佐清水市： <ul style="list-style-type: none"> 新規参入希望者の掘り起こし及び(株)足摺農園への橋渡し ●県（西部家畜保健衛生所等）： <ul style="list-style-type: none"> 肥育マニュアル作成支援 			
◆加工処理体制の強化	衛生管理体制の強化		加工処理の効率化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> HACCP 研修など学びの場への参加、県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> HACCP アドバイザー活用による認証に向けた支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)足摺農園： <ul style="list-style-type: none"> 処理ノウハウの蓄積、技術の向上、人材育成 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> さらなる効率化に向けた産振アドバイザーの活用 		

AP 名 (実施地域)	No.3 四万十ぶしゅかんの産地形成とブランド化 (四万十市)
実施主体	◎四万十ぶしゅかん生産者組合、◎四万十ぶしゅかん(株)、四万十市
AP への 位置づけ	H28.4 月
事業概要	地域特産のぶしゅかんを産地化し生産量の拡大を図るとともに、全国展開できるブランド力を育成することで、農家所得の向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
(1) 栽培面積	1,106a (H30)	1,350a		2,506a
(2) 生産量 ※	32,592kg (H30)	24,943kg		61,154kg

※ 園芸年度：8～10月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ぶしゅかん生産者組合の設立 (H28.5 月) ・接ぎ木苗の育苗、幼木管理等の栽培技術指導 (H28～) ・栽培講習会の開催 (H28～) ・青果買取り基準の作成 (H28) ・栽培マニュアルの策定 (H29) ・集荷形態の変更 (R2) ・市苗木補助メニュー及び産地化推進人員補助メニュー (ぶしゅかん産地化推進事業：地方創生交付金)の活用 (R2.4 月～) <p>◆加工品製造体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・搾汁拠点施設整備 (H28.8 月) → 四万十市産振補助金の活用 ・HACCP セミナー等の受講 (H28～29) <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『食の魅力』発見商談会等への出展 (H28～30) ・ぶしゅかん解禁祭等 PR イベントの開催 (H28～R 元) ・テレビ及びラジオ CM の放送 (H28～) ・市内小中学校での出前授業 (H28～) ・四万十ぶしゅかん(株)HP の開設 (H30) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合員数 H27：0 人 → R2(12 月末時点)：37 人 ※R3.4 月～ 7 名増える予定 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合員数 (= 生産者数) のさらなる拡大 ・苗木の確保と定着率の向上 ・好適圃場の確保 ・収益の大きい青玉出荷の拡大 ・県版 HACCP 第 3 ステージ認証取得 ・県内外でのぶしゅかんのさらなる認知度の向上

第4期計画における行程表						
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降	
◆生産体制の強化	栽培面積の拡大と技術向上					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん生産者組合、四万十市： 苗木の育成、新植及び改植の促進、定着率向上等のための栽培指導、栽培基準の磨き上げ、好適圃場の調査など、ぶしゆかん産地化推進計画の策定と実行 ●県（幡多農業振興センター等）：栽培に関する助言 					
◆加工品製造体制の強化	集出荷体制の効率化					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん生産者組合、四万十ぶしゆかん(株)、四万十市： 効率的な集出荷の検証・見直し・再構築・実施、消費期限の短い青玉の鮮度維持方法の検討 ●県（地域本部等）： 効率的な青玉集荷に関する産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 					
◆販路拡大	衛生管理の強化及び増産体制づくり					
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん生産者組合、四万十ぶしゆかん(株)、四万十市： 県版 HACCP 第3ステージ認証取得、委託等協力企業の拡大、増産体制づくりの検討 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）ほか、各種支援制度に関する情報提供 					
◆販路拡大	県内外への外商	青玉出荷の拡大		海外展開の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 県内居酒屋への展開、県外高級レストラン等への営業活動 ●県（地域本部等）： 情報発信、県アンテナショップの活用支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 梱包材や温度など青玉出荷方法の研究 ●県（地域本部等）： 飲食店等への青玉出荷に関する産振アドバイザーの活用提案 	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 海外展開の検討 ●県（地域本部等）： 貿易に関する情報提供、セミナー、商談会等の紹介、関係者への橋渡し 			
	機能性の追求と見える化			別分野市場への展開		
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 機能性の検証、協力企業や大学との連携、見える化 ●県（地域本部等）： 機能性表示等に係る相談、情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十ぶしゆかん(株)： 美容や健康に関する商談会への出展 ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、関係者への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.4 三原村ユズ産地化計画の推進 (三原村)
実施主体	◎(公財)三原村農業公社、JA 高知県 (幡多地区)、三原村
AP への 位置づけ	H21.4 月
事業概要	三原村の環境を生かした農業振興策として、ユズの産地化に取り組む。また青果率向上による所得の向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
青果出荷量(公社)	34.4t (R 元)	同左		61t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組み内容></p> <p>◆ユズ産地の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗用トラクター等機械整備 (H22.3 月) →H21 産振補助金の活用 (事業費 2,446 万円) ・共同選果場兼農業用機械倉庫等整備 (H23.3 月) →H22 産振補助金の活用 (事業費 5,651 万円) ・ユズ選果搾汁施設整備 (H28.3 月) →H26 産振補助金の活用 (事業費 3 億 738 万円) ・増産のための生産基盤の整備 (H30) ・公社での研修及び園地リースによる新規就農者支援 ・ユズドリンク、ユズ胡椒、ピール菓子等の商品開発販売 ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証の取得 (H29.3 月) <p>◆青果率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予冷库・カラーリング施設整備 (H24.3 月) →H23 産振補助金の活用 (事業費 4,496 万円) ・栽培講習会や現場巡回指導による栽培技術向上 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培面積 H19 : 7.6ha → R 元 : 51.4ha (うち公社 34.8ha) ・生産量 H19 : 65t → R 元 : 336t (うち公社 126t) ・新規就農 公社で研修し新規就農した人数 : 2 人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・増産に伴う出荷体制の強化 ・担い手の確保 ・青果率の向上

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ユズ産地の 確立	青果出荷体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA 高知県： 増産に対応した出荷体制の見直し、予冷库などの施設整備及び出荷時期の分散 ●(公財)三原村農業公社： JA 高知県との連携による効率的な選果場等施設の運用 				
◆青果率の向上	担い手の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村： 新農業人フェアでの PR 活動等による研修生の確保 ●(公財)三原村農業公社： 研修生への研修を通して地域の担い手としての人材育成 ●県（農業振興センター）： 現地講習会など新規就農者への支援として栽培技術や農業経営の支援 				
◆青果率の向上	青果率の向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(公財)三原村農業公社： スマート農業等を活用した適時適正な栽培管理の推進 ●県（農業振興センター）： 講習会や現場巡回指導などによる栽培技術の向上 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・スマート農業：ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.5 大月町内の持続可能な山林資源を活用した製炭業の推進 (大月町)
実施主体	大月町備長炭生産組合
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	町内に生育する最高級のウバメガシ等の山林資源を活用した備長炭の生産を安定的に行い、地域の主要産業としての推進を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
生産量	112t (H30)	105.5 t		120t

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町伝統産業育成協議会設立 (H21.4月) ・大月町備長炭生産組合設立 (H22.2月) ・製炭窯を10基設置 (H23~26) →H23、H24産振補助金の活用 (事業費2,644万円) ・ふるさと雇用事業を活用した生産から販売までの仕組みづくり (H24~26) ・高知県特用林産業新規就業者支援事業の活用 (H28~29、R2) ・高知県地域林業総合支援事業により原木供給に必要な作業道の開設 (H28~) ・国有林のウバメガシ伐採現場視察 (H30.3月) ・和歌山県で開催された「紀州山づくり塾」に参加 (H30.2月、R元.12月) ・ウバメガシ林造成に向けて検討会の実施(R2.8月) ・土佐備長炭ブランド化推進研修会を受講 (択伐施業 R2.11月、作業道開設 R2.12月) <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都内問屋視察研修 (H29.6月) <p>◆広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植樹祭を幡多農高生等を対象に実施 (H28~R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H23 : 3人 → R元 : 10人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産規模が小さい ・生産量の安定と質の向上 ・収益の多様化、チャンネルの多角化 ・当面の自主財源不足 ・安定的な原木の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産力向上	<p>原木の確保、生産者の技術力向上、育成研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大月町備長炭生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 町内のウバメガシ資源の情報収集及び立木の買い付け、組合員の和歌山県で開催されている森林塾への参加や択伐施業の実践により、資源の循環利用を目指し技術の習得を図る。 再造林によるウバメガシ林の純林の造成に向けて、町や森林組合との検討会の実施 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供や再造林検討会での助言等 				
◆販路拡大	<p>備長炭（燃料用）の県外での営業活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大月町備長炭生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 県外向けの商談会への出展、情報収集 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 商談会等の情報提供紹介、関係者への橋渡し 				
◆広報活動	<p>町内外のイベント出店等による広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大月町備長炭生産組合： <ul style="list-style-type: none"> 備長炭を知ってもらうための観光体験メニュー実施、町内のイベント等への出店や販売会の実施、県内の小中高生等を対象とした製炭学習及びウバメガシの植栽を実施 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 各種支援制度に関する情報提供や助言等 				

AP 名 (実施地域)	No.6 宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト (宿毛市)
実施主体	◎宿毛市、◎(一社)スタートアグリカルチャーすくも、JA 高知県 (幡多地区)、(一社)宿毛市観光協会、他関連事業者
AP への位置づけ	R2.4 月
事業概要	H31.4 月からクラスタープランの取り組みを開始。宿毛市の主要農産物である文旦等の「柑橘類」と「イチゴ」の生産拡大を核に、加工・観光などの事業者との連携を強化することで、地域産業クラスター化を図り、地域活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
(1) イチゴ生産量	48t (H30)	44t		63t
(2) イチゴ生産者戸数	9 戸 (H30)	10 戸		15 戸
(3) 文旦栽培面積	90ha (H30)	90ha		96ha

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアグリカルチャーすくも設立 (H31.4 月) <p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イチゴを使った新商品を開発中 (林邸 cafe) <p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスタープラン策定 (H31.4 月) ・プロジェクトチーム会開催 (R 元.7 月) <p><主な成果></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアグリカルチャーすくもに職員 2 名雇用、研修生 3 名確保 (R 元) ・イチゴ用ハウス完成 (R 元.11 月) 	<p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐田農園の「冷凍イチゴ」を宿毛市のふるさと納税の返礼品に追加 (R 元.7 月) ・スタートアグリカルチャーすくもで生産したイチゴのジャムが宿毛市ふるさと納税返礼品に採用 (R2) <p><課題></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存生産者の栽培面積の拡大による生産量及び所得向上、新規就農者への農地の確保 (文旦) ・JA の文旦集出荷場の高度化 (文旦) ・農業研修生の確保、農業研修生などのハウス確保の支援、収穫最盛期の労働力確保、健全苗の確保 (イチゴ) <p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品の開発・販売の強化、地元飲食店や観光業者との連携による地元食材を核にした地域イベントの開催、グリーンツーリズムの推進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化	イチゴの栽培研修、新規研修生の確保、生産者等の確保				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)スタートアグリカルチャーすくも、宿毛市、JA高知県： イチゴ農業研修生の確保及び研修、研修生などの用地（ハウス）の確保支援、健全苗の育成、柑橘農家への雇用等に関する支援 ●県（幡多農業振興センター等）： 各種支援制度に関する情報提供、各協議への参加 				
					文旦の生産拡大
	<ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市：栽培面積の拡大に係る候補地の選定及び調整、補助事業の活用に伴う事業計画の策定 ●県（幡多農業振興センター等）： 支援制度に関する情報提供、事業計画策定及び栽培管理に伴う支援 				
	文旦集出荷場の高度化の検討	高度化整備			
	<ul style="list-style-type: none"> ●JA高知県： 各関係者との協議、補助事業の活用検討 ●県（幡多農業振興センター等）、宿毛市： 各種支援制度に関する情報提供、各協議への参加 		<ul style="list-style-type: none"> ●JA高知県： 機械整備 ●県（幡多農業振興センター等）、宿毛市： 各種支援制度に関する情報提供 		
◆商品開発	加工品、メニューの開発・販売、地域イベントの開催、グリーンツーリズムの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市、市内加工業者、宿毛市観光協会、飲食店など： 新商品のコンセプトづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現、地域イベントの開催、観光農園の整備検討 ●県（地域本部等）、宿毛市： 試作品づくりへのアドバイスを得るための支援策提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆推進体制の強化	チーム会の取り組みの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市、市内観光業者、宿毛市観光協会、飲食店など： プロジェクトチーム会・勉強会等の開催による情報共有、連携強化 ●県（地域本部等）： 各会議への参加、各種支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.7 すくも湾漁協による水産物の加工・販売 (宿毛市) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	すくも湾漁業協同組合
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	宿毛市片島に整備した施設を核として、水産物の加工・販売を展開し、地産地消・外商を進めることで、漁業者の所得向上や雇用創出につなげていく。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	3,399 万円 (H30)	3,575 万円		5,000 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆宿毛湾産の水産物を活用した商品開発及び販路拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・水産物加工施設の整備 (H21.10月) →H21 産振補助金の活用 (事業費 1,697 万円) ・宿毛湾で水揚げされる漁獲物のうち、利用価値の低い魚種を中心に 1 次加工商品を製造し、学校給食や病院、介護施設等へ販売 ・すくもスモークの開発及び試験販売 (H27) ・養殖クロマグロの未利用部位 (心臓や胃袋等) の 1 次加工品の販売 (H27) ・ふるさと納税の返礼品として「宿毛の養殖ブリ、直七マダイの豪華しゃぶしゃぶ鍋セット」の販売 (H29～) ◆加工商品の PR <ul style="list-style-type: none"> ・県内で開催されるイベント等で、加工商品の販売及び PR を実施 ◆未利用水産物の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> ・宿毛湾で水揚げされるサメ類を用いた加工商品を開発し、宿毛市学校給食センター等への試験販売 (H30) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・取引先の増加 H21 : 26 件 → R2 : 49 件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕入額削減及び販売額増加による収益の向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆宿毛湾産の水産物を活用した商品開発及び販路拡大	<p>製造・販売体制の維持・強化</p> <p>●すくも湾漁業協同組合： 販売商品のラインナップの追加・削除、製造・販売数量の見直し 既存販売先への安定供給、新規取引先の開拓</p> <p>●県（地域本部、漁業指導所等）： 上記取り組みに対する助言</p>				
◆加工商品のPR	<p>県内イベント等における加工商品の販売及びPR</p> <p>●すくも湾漁業協同組合： 県内イベント等への積極的な出店</p> <p>●県（地域本部、漁業指導所等）： イベント等の開催情報の提供及び出店支援</p>				
◆未利用水産物の有効活用	<p>未利用水産物を用いた加工商品の開発及び販売、地産地消・外商の推進</p> <p>●すくも湾漁業協同組合： 管内で水揚げされるサメ類等を用いた1次加工商品の製造及び販売の継続実施 既存取引先に対する営業活動、新規取引先開拓</p> <p>●県（地域本部、漁業指導所等）： 販路開拓に際しての助言 外部機関の専門家の招聘を行う場合の産振アドバイザー制度の活用提案</p>				

AP 名 (実施地域)	No.8 宿毛湾の養殖魚を中心とした付加価値の高い加工品の販売 (宿毛市) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	(株)勇進
AP への 位置づけ	H27.4 月
事業概要	養殖場近辺に整備した加工施設を核に、原魚の鮮度を保持した付加価値の高い加工品製造に取り組み、通年・一定価格で販売する。これにより経営の安定化を図り、地域漁家との連携協力体制を構築して、宿毛湾産養殖魚の PR を実施するとともに、漁業者の減少を防ぎ、地域雇用を生み出す。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
売上高	1.7 億円 (H30)	2.95 億円		5 億円

会計年度：5～4 月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆加工品の商品開発・販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会出展等の販促活動実施 (H27～R2.12 月：68 件) ・新商品の開発 (H29～R 元) ・各販促物のリニューアル開始 (H30) <p>◆生産体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理の強化に向け、県版 HACCP 講習会に参加 ・生産拠点となる水産物加工施設の整備 (H28.3 月) → H27 産振補助金の活用 (事業費 1 億 2,900 万円) <p><主な成果></p> <p>◆加工品の商品開発・販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商人塾短期集中セミナー in 幡多修了 (H30) ・ロゴのリニューアル (H30) <p>◆生産体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場管理のための従業員雇用 (パート含む) → 新規雇用 3 名 (H30～R2) ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得 (R 元) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大 ・生産体制の強化 ・販売戦略の見直し

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆加工品の商品開発・販路拡大	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">付加価値の高い新加工商品の開発及び販売、地産地消・外商の推進</div>				
	<div style="border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)勇進： 新商品のコンセプトづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現、商談会等への出展、個人飲食店等への販促活動 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 2px 5px; display: inline-block; border-radius: 10px; margin-bottom: 5px;">販売戦略見直し</div> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)勇進： 前年度までの売上を考慮した販売戦略の見直し ●県（地域本部等）： 商工会議所等との連携支援、販売戦略づくりのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案 </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 2px 5px; display: inline-block; border-radius: 10px; margin-bottom: 5px;">販売戦略見直し</div> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)勇進： 前年度までの売上を考慮した販売戦略の見直し ●県（地域本部等）： 商工会議所等との連携支援、販売戦略づくりのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案 </div> </div>				
◆生産体制の確立	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">衛生管理体制の強化及び人材確保・育成</div>				
	<div style="border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)勇進： 県版 HACCP 第3ステージ認証取得に向けた取り組み、雇用拡大、従業員教育の実施 ●県（地域本部等）： 県版 HACCP に関する講習会及び研修会等に係る情報提供、その他各種支援制度に関する情報提供 </div>				
<div style="border: 1px solid #0070c0; border-radius: 20px; padding: 10px;"> <p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> </div>					

AP 名 (実施地域)	No.9 宿毛湾のキビナゴ加工商品等の販売拡大 (大月町) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	八重丸水産(株)
AP への 位置づけ	H23.4月
事業概要	大月町の地域資源の一つであるキビナゴを活用した商品等の加工体制の強化を図るとともに、町内の道の駅との連携、商品力の強化及び県内外の展示商談会への参加等による販路拡大及び売上向上を図る。これにより、キビナゴの消費拡大、雇用拡大等につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高 ※	2,855 万円 (R元)	同左	2,565 万円 (対前年比 89.8%)	3,400 万円

※会計年度：9～8月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販路拡大・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きびなごケンピ」が高知県地場産業奨励賞受賞 (H23) ・「きびなごケンピ」がファストフィッシュ商品に認定 (H24) ・加工場改修及び攪拌機器等整備 (H24.2月) → H23 産振補助金の活用 (事業費 1,370 万円) ・県内外展示商談会出展、パッケージ開発、販促資材製作 (H23～) → H24 産振補助金の活用 (事業費 169 万円) → H28～30 経営革新等支援事業費補助金の活用 (事業費 280 万円) ・fish-1 グランプリで大日本水産会長賞受賞 (H28.3月) ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得 (H29.7月) ・食品ビジネス事業戦略の策定 (H31.3月) ・「本まぐろホルモンカレー」が高知家のうまいもの大賞 2021 入賞(R2.12月) <p>◆新商品開発・既存商品の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きびなごケンピの新商品アイテムの開発 (H23～29) ・商品形態 (内容量) のバリエーション充実 (H24～27) ・パッケージのリニューアル (H24～) ・きびなごロースト、本まぐろホルモンカレーの開発 (R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H22：4人 (正規2人、パート2人) → R元：6人 (正規1人、パート5人) ・取引件数 H25～R元：新規 103 件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・増益に向けた既存商品の改良と新商品の開発 ・事業拡大に向けた業務用筋への参入

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆販路拡大・販売促進</p>	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;"> 県内外の展示商談会等への出展 </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●八重丸水産(株) : 販促ツールの製作、県内外の展示商談会への出展、プロモーション活動の実施、業務用筋参入のための視察、県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ●県(地域本部等) : 販促ツールの製作及び展示商談会出展に関する各種支援制度活用に関する支援、展示商談会等の紹介、衛生管理・食品表示に関する各種支援制度の情報提供及び講習会等の紹介、関係者への橋渡し、事業戦略の進捗管理(フォローアップ) 				
<p>◆新商品開発・既存商品の磨き上げ</p>	<div style="background-color: #0070c0; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;"> 付加価値の高い新加工商品、きびなごケンピの新商品アイテムの開発及び販売 </div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●八重丸水産(株) : 収益の柱となる新たな商品の開発、商品ラインナップの充実、商品改良、パッケージ改良、商品の利益率の改善 ●県(地域本部等) : 新商品開発及び商品改良等に関する各種支援制度活用に関する支援、事業戦略の進捗管理(フォローアップ) 				
<p>【用語】・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.10 宿毛湾の干物等水産加工品の販売拡大 (大月町) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	土佐大月海産
APへの位置づけ	H26.4月
事業概要	干物等水産加工品の業務筋や小売店への販路拡大に向け、衛生管理体制の強化を図るとともに、新商品開発や既存商品の磨き上げ、個人顧客の掘り起こし等による売上の向上を図る。また、原魚は地域資源のみを活用し、商品ラインナップの拡充も進めることで、地元漁業者の所得向上につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	2,602万円 (H30)	2,888万円		3,300万円

会計年度：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販路拡大・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大月町ふるさと振興公社ギフトカタログへの掲載 (H26～) ・水産加工機器等整備 (H27.5月) → H27 産振補助金の活用 (事業費 870万円) ・商品及び会社紹介のリーフレット等製作 (H29.12月) → H28 補正 小規模事業者持続化補助金の活用 (事業費 33万円) ・県版 HACCP 第2ステージの認証取得 (H30.10月) ・通販サイトリニューアル、販促資材製作 (R元.12月) → R元 小規模事業者持続化補助金の活用 (事業費 80万円) <p>◆新商品開発・既存商品の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パッケージのリニューアル (H29.12月) ・商品形態のバリエーション充実 (H30.6月) → 「きびごま」と「スナックうるめ」のボトルタイプ ・観光客向けお土産セット商品の販売開始 (H30.8月) ・塩麴漬け商品 (鯛・ブリ・きびなご) の販売開始 (H31.1月) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H25：4人 (正規1人 パート3人) → R2：5人 (正規4人 パート1人) ※ R元現在 パート雇用3人が正規雇用へ切替 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理体制のさらなる充実強化 ・利益率が高い個人顧客の獲得 (増益への取り組み) ・事業拡大に向けた業務用筋等への算入

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆販路拡大 ・販売促進</p>	<p>個人顧客の獲得、業務筋等への販路開拓</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐大月海産： <p>ダイレクトメールの発送、ふるさと納税返礼品返礼時のPR、通販サイトによる新規顧客の獲得、販促ツールの製作、県内外の展示商談会への出展、プロモーション活動の実施、市場の動向等を踏まえた戦略づくり、県版 HACCP 第3ステージ認証取得</p> ●県（地域本部等）： <p>販促ツールの製作及び展示商談会出展に関する各種支援制度の活用支援、展示商談会等の紹介、事業戦略づくりに関する各種支援制度の活用支援及び講座等の紹介、衛生管理・食品表示に関する各種支援制度の情報提供及び講習会等の紹介、関係者への橋渡し</p> </div>				
<p>◆新商品開発・ 既存商品の磨き 上げ</p>	<p>地域資源を活用した付加価値の高い新商品開発及び既存商品の磨き上げ</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐大月海産： <p>新たな商品の開発、商品ラインナップの充実、商品改良、パッケージ改良、市場の動向等を踏まえた戦略づくり</p> ●県（地域本部等）： <p>新商品開発及び商品改良等に関する各種支援制度の活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援、事業戦略づくりに関する各種支援制度の活用支援及び講座等の紹介</p> </div>				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.11 幡多地域産品販売体制の構築 (幡多地域全域)
実施主体	◎幡多広域地産外商推進協議会、生産者、加工事業者
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	幡多の市町村や民間事業者等が連携を図りながら、地域内にある地域食材、加工品等の資源を結びつけ、量販店でのフェア等の開催を通じた一次産品や特産品、観光資源等の情報発信・PR を一体的に行うことにより、さらなる地域産品の販路開拓及び販売の拡大、並びに交流人口の拡大につなげる連携体制を構築することで地域活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
- (※)				- (※)

(※) R3年度以降に設定予定

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆推進組織体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 幡多6市町村で「幡多広域地産外商推進協議会」を設立 (H28.5) 作業部会の開催 (H28～R元) 総会の開催 (H29～30) <p>◆事業者との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 主催イベント「幡多フェア」への参加呼びかけ (H28～30) 管内事業者の外商に向けた意識等調査 (H29) <p>◆販路開拓及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外での幡多フェアの開催 (H28 津山市、H29～30 松山市) 「幡多バル」での粗品配布やイベントへの参加 (H29～30) 「幡多バル」全店舗閉店 (R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 協議会設立により、市町村間での販売イベントや地域産品等の情報共有が促進した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動方針の再整理 事業者との連携強化 大都市圏へのPR

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆推進組織体制の強化	活動方針の再整理		市場の状況を踏まえた事業戦略づくり		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 現状、課題及び活動の優先順位の再整理、協議会内での役割分担等を協議 ● 県（地域本部等）： 市町村間での協議・調整を支援、観光やスポーツにかかる事業企画の提案 		<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 市場調査、外商推進のための事業戦略の策定 ● 県（地域本部等）： 事業戦略策定へのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案 		
◆事業者との連携強化	事業者に関する情報の共有				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 事業者調査の実施及び分析、商工会議所・商工会との連携 ● 県（地域本部等）： 事業者調査の実施及び分析の支援 				
	事業者とのコミュニケーション強化				
<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 事業者視察等の研修の実施、外部の商談会や研修等への参加促進 ● 県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、県主催商談会参加者や土佐 MBA 参加者の情報提供 					
◆販路開拓及び販売促進	PR イベントの開催				
	<ul style="list-style-type: none"> ● 幡多広域地産外商推進協議会： 県外での幡多フェアの開催及び大都市圏での開催検討、バイヤー招聘による商談会の実施 ● 県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供、県外事務所等との橋渡し 				
<p>【用語】</p> <p>幡多バル：幡多をテーマにしたバル形式の居酒屋。(株)ワールド・ワンの店舗ブランドの一つで、幡多6市町村と同社との間で「アンテナショップ活用に関する連携協定」を締結し、地域製品の販売拡大、観光誘客、地域活性化に資するアンテナショップとして位置付けられている。</p>					

AP名 (実施地域)	No.12 宿毛市^{な お し}特産直七の生産・加工・販売の促進 (宿毛市)
実施主体	◎直七生産(株)、直七の里(株)
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	2,900万円 (H30)	2,401万円		9,400万円

会計年度：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七生産組合の設立 (H21) ・搾汁施設等の整備 (H22.10月) →H22 産振補助金の活用 (事業費 7,081万円) ・直七生産組合の法人化 (直七生産(株)) による組織体制の強化 (H27) <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県外商談会出展等の販促活動実施 (H21～R2) ・「直七の里(株)」設立 (H23) ・新商品の開発、商品パッケージの見直し (H22～) ・県内外に店舗をもつ飲食店事業者が直七の卸売事業を開始 (R2～) <p><主な成果></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作付面積 約 38.98ha (H30時点) ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得(H28) ・搾汁機械改修 (R2) <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直七とあめ色玉ねぎのドレッシング販売(H28) ・カゴメ「野菜生活 100 直七ミックス」販売(H28～29) ・大手飲料メーカーから果汁を使用したチューハイを販売 (H30～R2) 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大 ・生産者に対する栽培技術の共有

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">収穫量の拡大と栽培技術の向上</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●直七生産(株) : 生産者に対する栽培技術の共有、搾汁機械の改修の検討 ●県(幡多農業振興センター等) : 栽培技術に関する助言、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路拡大	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">販路拡大</div>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●直七生産(株)・直七の里(株) : 商談会・催事等への参加、バイヤー等への営業等県内外への外商強化 ●県(地域本部等) : 各イベントに関する情報提供、各種支援制度に関する情報提供 				
	<div style="background-color: #4a86e8; color: white; padding: 5px; display: inline-block; border-radius: 10px;">新商品の開発</div>				
<ul style="list-style-type: none"> ●直七の里(株) : コンセプトづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現 ●県(地域本部等) : 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】 ・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・直七 : 古くから幡多地域で栽培されている酢みかん「直七」は、「魚料理には欠かせない」日常の食材。もともとは広島県因島地方原産の「田熊スダチ」という柑橘ですが、かつて直七という魚商人が「魚にかけるとおいしい」と触れ回ったことからこの名がつけました。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.13 幡多地域における昭和初期からの地域伝統商品の販売拡大等の推進 (宿毛市)
実施主体	(有)菱田ベーカリー
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	昭和 40 年代から製造し、地元で愛されている「羊羹パン」など昭和レトロをコンセプトとした商品の販売を拡大し、全国に展開していくことで、独自ブランドを確立するとともに、新たな雇用の創出による地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
売上高	4,567 万円 (H30)	3,842 万円		9,000 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ものづくり競争力強化支援事業費助成金を活用し、プレハブ冷凍庫を導入 (H28) 県食品産業総合支援事業費補助金を活用した機器の導入 H29: 低温冷凍機、R 元: オーバーヘッドプルファー 県版 HACCP 各種研修受講 (H28~) 従業員を対象とした HACCP 講習会を開催 (H29) <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内外販促活動 H28~R2.11月: 69 件 県産振総合補助金 (ステップアップ事業) 活用し、首都圏駅ナカでテストマーケティングを実施 (H28) 県産振アドバイザー制度活用 H28: マスメディアを生かした販売戦略について R2: 衛生管理の強化について <p>◆新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営革新等支援事業費補助金を活用し、テストマーケティング等を実施 (H30) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 県版 HACCP 第 2 ステージの認証取得 (H29) 「あんこブッセ」の完成・販売 (H30) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 新規顧客獲得 羊羹パンに次ぐ商品の開発 生産体制の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化	<p>衛生管理体制の強化及び人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)菱田ベーカリー： 県版 HACCP 第3ステージ認証取得、従業員教育（衛生管理及びコストに関する知識等）の実施、施設整備の検討 ●県（地域本部等）： 衛生管理及びコストに関する知識等を得るための産振アドバイザーの活用検討、各種研修会等に係る情報提供、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路拡大	<p>県内外での販促活動、新規顧客獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)菱田ベーカリー： 県内外での商談会・催事等への出展、ホームページ充実（ネット販売の強化） ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆新商品の開発	<p>昭和レトロをコンセプトとした商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(有)菱田ベーカリー： ストーリーづくり、ターゲット選定、試作品づくり、市場調査、製造方法等の検討、商品化の実現、商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを求めるための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保障しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.14 土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎土佐清水食品(株)、土佐清水鯉節水産加工協同組合、宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	土佐清水市の主要な産業の一つであるメジカ関連産業を核として、原材料の確保から加工食品の製造、販売の促進を一体的に取り組む連携体制を構築することで地産地消・外商を強化し、雇用の創出と地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
土佐清水食品(株)の売上高	18.5億円 (H30)	18.7億円		23.6億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆保管・加工施設の整備及び運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業戦略策定 (H29、土佐清水 HD) ・メジカ産業プロジェクト推進協議会の設立 (H29～) ・新冷凍保管施設の稼働開始 (H31.4月～) ・残渣処理施設の試験稼働開始 (R2.12月～) ・県版 HACCP 第2ステージ認証取得 (H29、土佐食) ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得 (R元、土佐食) <p>◆スープブロスを核とした、製造・販売体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物流通システムの整備等 (H21、元気プロジェクト) →H21 産振補助金の活用 (事業費 3,978万円) ・殺菌・真空包装機器の整備 (H22、土佐食) →H22 産振補助金の活用 (事業費 6,878万円) ・宗田節関連新商品開発 (H23、H25、元気プロジェクト) →H23、H25 産振補助金の活用 (事業費 1,145万円) ・宗田節新商品 (スープブロス) の開発 (H30) ・スープブロスのテストマーケティング開始 (R元～) ・土佐清水食品(株)発足 (R元) 土佐清水ホールディングス(株)が土佐食(株)、(株)土佐清水元気プロジェクトを吸収合併 ・スープブロス製造ラインの整備 (R2) →R2 産振補助金の活用 (事業費 1億 2,463千万) 	<p>◆メジカ・宗田節の全国的なPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗田節 PR(テレビ CM 等) (H24、知ってもらいたい委員会) →H24 産振補助金の活用 (事業費 433万円) ・宗田節ロード(スタンプラリー)実施 (H29～R2) ・宗田節まつりの開催 (H30、R元) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗田節ポン酢が「高知家のうまいもの大賞」優秀賞受賞 (H28) ・宗田節まつり来場者数 (H30: 2,200人、R元: 2,500人) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同加工施設及び残渣加工施設の整備、運営 ・新会社(土佐清水食品(株))の効率的な組織運営 ・スープブロスの大量製造に向けた、製造ラインの整備計画及び販売計画の具体化 ・スープブロスの全国販売を通じた、宗田節の知名度の全国的な向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆保管・加工施設の整備及び運営	保管・加工施設の整備及び円滑な運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市、土佐清水経節水産加工協同組合： 共同加工施設（R4.4月稼働予定）、残渣加工施設（R3.4月稼働予定）の整備、冷凍保管施設（H31.4稼働開始）をはじめ整備施設の円滑な運営、宗田節加工事業者の施設利用の促進 ●土佐清水食品㈱： 効率的な人員配置・生産管理等による3施設の円滑な運営 ●県（水産振興部等）： 施設整備にあたっての国補助制度活用に関する支援、衛生管理研修会の情報提供、HACCPアドバイザーの活用による社内勉強会実施を支援 				
◆スープブrossを核とした、製造・販売体制の確立	製造ライン整備		スープブrossの製造の拡大に向けた体制づくり		
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品㈱： 製造ライン整備にかかる事業計画策定、ライン整備 ●土佐清水市：製造ラインを整備する施設の貸与、市産業振興補助金による支援 ●県（地域本部等）： 製造ライン整備の事業計画策定の支援、産業振興総合補助金による支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品㈱： 新会社の効率的な運営体制の再構築、衛生管理に関する研修への継続参加 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー活用等による効率的な経営体制づくりの支援、衛生管理研修会の情報提供 		
	テストマーケティング開始		全国的な販路開拓による販売拡大		
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品㈱：県内・県外での本格販売に向けたマーケットリサーチ ●土佐清水市：テストマーケティングの支援 ●県（地域本部等）：県アンテナショップを活用したテストマーケティング実施の支援 		<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品㈱： ターゲットを見据えた営業、市ゆかりの店（土佐清水ワールド、幡多バル等）へのアプローチ ●土佐清水市：販路開拓の支援 ●県（地域本部等）： 県アンテナショップを活用した販売促進、営業協力に関する地産外商公社への橋渡し 		
◆メジカ・宗田節の全国的なPR	スープブrossの全国展開等による宗田節の効果的な情報発信				
<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水食品㈱： スープブrossの全国的な販路開拓活動と連動した情報発信、HP及びSNSでの情報発信の強化 ●宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市： 知ってもらいたい委員会の運営、宗田節ロード及び宗田節祭りの継続開催、市ゆかりの店（土佐清水ワールド、幡多バル等）と連携したPR ●県（水産振興部、地域本部等）： 水産振興に関する補助事業による支援、知ってもらいたい委員会への参画による助言・情報提供・関係機関との連携、PR活動への人的支援 					

AP 名 (実施地域)	No.15 宗田節だし加工商品の販路拡大の促進 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	(株)ウェルカムジョン万カンパニー
AP への 位置づけ	H26.4月
事業概要	宗田節関連商品の生産体制・衛生管理体制の充実により、県外及び海外への販路拡大を図るとともに、新たな商品開発等や付随する設備機器導入に取り組むことで宗田節生産者の所得向上と雇用の創出を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	8,516万円 (H30)	8,672千円		1億円

会計年度：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 生産拠点となる「加工施設」の整備 (H27.3月) →H26 産振補助金の活用 (事業費 2,165 万円) 県版 HACCP 第3ステージ認証取得 (H29.12月) <p>◆商品開発・改良</p> <ul style="list-style-type: none"> 新商品「宗田節おかき」の開発、販売開始 (H26) 宗田節おかきが「高知家 土産物コンクール 2015」の大賞を受賞 (H27) 新商品「めんつゆボトル」の開発、販売開始 (H30) 「宗田節おかきカレー味」の販売開始 (R2) 家庭向け商品の開発及び・工場内衛生環境の整備 (R2) →新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金 (事業費：791万円) <p>◆県外での販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内外の商談会への出展：15回 (H28～R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 正社員の増加 H26：3名 → R2：5名 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者ニーズにあった商品規格、デザインの向上 製造力のさらなる向上 県外・海外での販売先の新規開拓

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産体制の強化	衛生管理体制の維持・向上 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：社員の衛生管理研修会への参加、社内での勉強会の継続的な実施 ●県（地域本部等）：衛生管理研修会の情報提供、HACCP アドバイザーの活用による社内勉強会実施を支援 			海外輸出レベルの衛生管理体制強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：欧米への輸出に対応する衛生管理体制の強化 ●県（地域本部等）：HACCP アドバイザーの活用提案 	
				新たな製造機器の導入 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：新商品開発（だしパック等）にあわせた製造方法の検討、設備機器の導入 ●県（地域本部等）：活用可能な補助メニューの提案 	
◆商品開発・改良	既存商品の磨き上げ・改良 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：取扱店、HP を通した消費者ニーズの把握、ニーズに合わせた商品規格・デザイン等の見直し ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案、商品改良に活用できる支援策の提案 			新商品開発 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：試作品づくり、市場調査、製造方法の検討、商品化 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案、商品開発に活用できる支援策の提案 	
◆県外での販路拡大	県外での新たな販路の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：展示会・商談会への出展 ●県（地域本部等）：展示会・商談会情報の提供 			県外に加え、海外での新たな販路の開拓 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：国内向け展示会・商談会への出展、貿易セミナー等でのノウハウ習得、海外向け商談会への出展 ●県（地域本部等）：展示会・商談会情報の提供、貿易に関する情報提供、関係者への橋渡し 	
				県外での認知向上を狙った、HP・SNS を活用した情報発信の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●(株)ウェルカムジョン万カンパニー：HP の改良、SNS の効果的な活用 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案（HP の見せ方、SNS による発信手法） 	

AP名 (実施地域)	No.16 幡多地域産品を活用した加工商品の開発販売と流通システムの構築 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト、宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(株)郷土活性化組合 (土佐清水活性化組合)、土佐清水外商流通組合、土佐清水市
APへの位置づけ	H29.4月
事業概要	地域の生産者や民間事業者等が連携を図りながら、土佐清水市のゆかりの店を始めとする飲食店 (土佐清水ワールド・幡多バル) 等への取引拡大に向け、地域産品を活用した新たな加工商品を開発・販売するとともに、地域食材の調達の仕組みや流通システムの構築に取り組むことにより、メジカ産業をはじめとする基幹産業の再生を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
出荷事業者数	33 (R元)	同左		50

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆流通システムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャーター便を利用したコンテナ輸送の試行 (H29) ・産業振興アドバイザーを活用し清水サバ活魚運搬及び管理についての改善 (H30:3回) →店舗生けすの環境改善が図られ、活魚の鮮度向上につながった。 ・土佐清水活性化組合を開設 (H30.11月) <p>◆地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産外商できる地域産品の掘り起こし (H29.4月～) ・加工商品生産設備の整備について検討 (H30.4月～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐清水市内1次加工及び出荷拠点の整備 H29 (0件) → R元 (1件) ・ワールド・ワンの幡多関連店舗の開設 H29: 土佐清水ワールド3店、幡多バル1店 (神戸市) (計4店) → R元: 土佐清水ワールド9店 (神戸市4店、東京23区3店、大阪市2店) 幡多バル3店 (神戸市1店、東京23区1店、高知市1店) (計12店) → R2: 土佐清水ワールド9店 (神戸市4店、東京23区3店、大阪市2店) 幡多バル3店 (神戸市1店、東京23区1店、高知市1店) 閉店 土佐清水薫焼きワールド (鮮魚店) オープン (計10店) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・より効率的かつ安価な流通システムの構築 ・新たに地産外商できる地域産品の掘り起こし ・地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆流通システムの構築	各市町村及び生産者、加工業者との協議・調整			市内の加工流通拠点の拡充	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）： 混載を進めるための取引先（生産・加工事業者）との調整、市内加工流通拠点での一次加工処理件数の増加 ●県（地域本部等）： 流通の仕組みのさらなる向上に向けた産振アドバイザーの活用提案、流通システム向上に関連する機器・ソフトの導入の検討（産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性の検討、各種支援制度に関する 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）： 取引拡充に応じた拠点の拡充計画の検討 ●県（地域本部等）： 拠点拡充検討に際して産振アドバイザー及び産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用 	
◆地域産品を活用した加工商品の開発・販売促進	新たな地域産品及び生産加工事業者の掘り起こし、加工商品の開発				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）、土佐清水外商流通組合、土佐清水市： 生産・加工事業者を対象にした研修会の開催（飲食店等との取引ノウハウ、都市部のニーズに応じた加工商品の開発などをテーマとする） 生産・加工事業者に対し、取引に向けたアプローチや飲食店等取引事業者が求める納入に際しての一次加工の方法や新たな加工商品についての情報提供 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー及び地域の頑張る人づくり事業の活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	新たなファンづくりを通じた産地の活性化			コアなファンを通じた産地の育成	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）、土佐清水市： 幡多地域の市町村や幡多広域観光協議会等と連携した産地見学ツアーの設定、ツアー参加者への地域産品に関するニーズ調査の実施 ●県（地域本部等）： 産地見学ツアープラン作成の検討の場への参画によるアドバイス、産振アドバイザーの活用によるツアープランづくりの専門家からの助言 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)郷土活性化組合（土佐清水活性化組合）、土佐清水市： 産地見学ツアー参加により形成された「コアファン」の意見を生かした新たな地域産品の掘り起こし、新たな加工商品の開発 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザー、各種支援制度の活用提案 	

AP 名 (実施地域)	No.17 宗田節の一般向け削り加工商品の販売促進と体験観光の強化 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	(株)たけまさ商店
AP への 位置づけ	R2.4 月
事業概要	新たな加工販売・体験型観光施設を核として、付加価値の高い一般消費者向け削り節商品の販売拡大や、節づくり体験観光の利用者数増加を図ることにより、地域の基幹産業である宗田節の販売拡大及び知名度の向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R 2	R 5
(1) 売上高	7,400 万円 (R 元)	同左		9,600 万円
(2) 体験者数	200 名 (R 元)	同左		700 名

会計年度：8～7月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐 M B A「目指せ！弥太郎 商人塾」受講 (H23) ・土佐 M B A「商人塾・短期集中コース」受講 (R2) ・株式会社化 (H30) ・「宗田節加工販売・体験観光施設」整備計画の作成 (R 元) → R2 産業振興補助金の活用 (事業費 8,680 万円) <p>◆販売拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般消費者向け加工商品の販売開始 (H21) ・高知県産品商談会への出展 (R 元～) ・幡多商談会への出展 (R 元) ・県外の商談会への出展 (R 元) ・販売拡大に向けたセミナーの受講 (オンライン商談、スマホ動画作成) (R2) ・刃物メーカーと連携した商品を開発 (R2) <p>◆節納屋体験観光の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節納屋体験観光の事業プランが、「高知を盛り上げるビジネスプランコンテスト」優秀賞を受賞 (H28) ・「節納屋」(宗田節の加工事業者) 体験観光の本格展開 (H29～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 正社員 2 名、パート等 8 名 (R2.1 月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗田節の知名度の向上 ・新たな宗田節加工販売・体験観光施設の整備及び円滑な運用 ・観光体験メニューの充実による体験型観光客数の増加

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆生産体制の強化	施設整備及び HACCP 取得		増産に伴う生産体制の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 施設整備及び稼働開始、県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ●県（地域本部等）： 産振補助金の活用、各種研修会への参加の呼びかけ 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 新たな人材の雇用及び育成、生産管理面の見直しによる効率アップ ●県（地域本部等）： 生産管理に関する産業振興アドバイザーの活用提案、各種セミナー情報提供 		
◆販売拡大	ターゲットを見据えた販路開拓		商品アイテムの充実強化による販売拡大		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： ターゲット別の商談会への出展による営業先開拓、既存取引先への販売拡大 ●県（地域本部等）： 商談会等の情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 市場調査によるニーズ把握、既存商品のブラッシュアップ及び新たな商品開発 ●県（地域本部等）： 商品改良・開発に関する産業振興アドバイザーの活用、県アンテナショップでのテストマーケティング支援、各種支援メニューの情報提供 		
	販路拡大に向けた基盤づくり		ネット媒体を活用した個人顧客の獲得		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 販促ツールの作成、専門家を通じた情報発信のスキルアップ ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等講座の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： SNS の活用による宗田節の魅力や観光情報の発信、顧客情報のデータベース化、顧客との双方向コミュニケーションによるファンづくり ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 		
◆節納屋体験観光の強化	体験メニューの充実による新規顧客の獲得				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)たけまさ商店： 利用者ニーズを反映した体験メニューの内容改定、販促ツールの作成、ネット媒体による情報発信のスキルアップ、市観光協会及び幡多広域観光協議会と連携した情報発信 ●県（地域本部等）： 販促ツールの充実、ネット媒体の活用に関するスキルアップのための産業振興アドバイザーの活用提案、関係機関との連携 				

AP 名 (実施地域)	No.18 新たな製造方式の導入による宗田節等の生産・販売の強化 (土佐清水市)
実施主体	(有)ヤマア
AP への 位置づけ	R 3.4月
事業概要	宗田節等生産の焙乾工程に、新たに焼津式乾燥機等を導入し、生産性の向上や生産拡大、削り節小売商品の磨き上げにつなげることで、安定的な雇用拡大や地域の基幹産業の振興、知名度向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
売上高	1.9 億円 (R 元)	同左		2.3 億円

会計年度：7～6月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆顧客のニーズに合わせた節製造の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗田節（丸節）の生産拡大（R 元～） ・宗田節以外の節（サバ、ムロ、うるめ節等）の生産拡大（R 元～） ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得（R 元） ・産業振興アドバイザー（発掘支援型）の活用（R 2） <p>◆販売拡大・新商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EC サイトを活用した販売開始（R 元～） ・新商品「宗田ジャージャー」の開発・販売開始（R 元） ・高知県産品商談会（県地産外商公社）への出展（R 2） ・オンライン商談会への参加（R 2） ・動画を活用した商品 PR（R 2～） ・ラーメン店への業務用商品の販売（R 2～） ・SNS を活用した商品 PR（R 2～） <p>◆雇用体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧来の節納屋の雇用形態の見直し（R 2） ・宗田節以外の節の生産強化による年間操業及び雇用の安定 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品「宗田ジャージャー」の開発（R 元） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客のニーズに合わせた丸節の生産拡大 ・小売商品の販売増 ・インターネットを活用した販売の強化 ・雇用の拡大、外国人労働者の受入れ ・新規取引先の開拓 ・衛生管理体制の強化（小売商品を含む） →県版 HACCP 第 3 ステージ認証取得

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆顧客のニーズに合わせた節生産体制の強化	施設整備及び HACCP 認証取得		生産体制の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 施設整備（焼津式乾燥機、煮熟設備）及び稼働開始、県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ●県（地域本部等）： 産業振興推進総合支援事業費補助金の活用、各種研修の参加呼びかけ 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 増産に伴う生産管理の見直し、サバ、ムロ、うるめ等の節の生産強化、従業員のスキルアップ ●県（地域本部等）： 生産管理に関する産業振興アドバイザーの活用提案、各種セミナーの情報提供 		
◆販売拡大・新商品の開発	既存商品の磨き上げ		新商品の開発		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： マーケティング分析や既存商品のパッケージの見直し等の改良、ブランディング ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、商談会等の情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 市場調査によるニーズの把握及び新商品の開発 ●県（地域本部等）： 商品開発に関する産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援メニューの提案 		
	販路開拓		インターネットを活用した販売の促進		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 商談会等への出展による販売先の開拓、既存取引先への販売拡大、他事業者と連携した販路開拓 ●県（地域本部等）： 商談会の情報提供、土佐MBA等の講座の提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： HPやSNSを活用し、宗田節商品等のPR、販売促進 ●県（地域本部等）： 各種研修、セミナー等の参加呼びかけ 		
◆雇用体制の強化	生産増に伴う雇用の強化				
<ul style="list-style-type: none"> ●(有)ヤマア： 生産増に伴う雇用の創出、外国人研修生の受入れ ●県（地域本部等）： 各種支援策の提案、研修等の参加呼びかけ 					

AP名 (実施地域)	No.19 西土佐産栗の地産外商の推進 (四万十市)
実施主体	(株)しまんと美野里
APへの位置づけ	H22.4月
事業概要	西土佐地区の栗園再生に向け、「より高く、より多く売るしくみ」と「栽培しやすい環境づくり」に平行して取り組むとともに、イベントでの販売や加工品販売により、県内外に向けて情報発信を行うことで、栗の栽培及び販売額の向上を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 売上高	1,250万円 (H30)	1,200万円		2,000万円
(2) 生栗の仕入量	7.8t (H30)	6.8t		10.0t

集計期間：6～5月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・焼き栗機の購入 (H29) →H29 四万十市産振補助金の活用 ・栗の選別機を購入 (H30) →H30 四万十市産振補助金の活用 ・商品開発 (パウダー・ペーストを使った商品、地域の多素材を使った商品) (H28～30) ・「ものづくり総合技術展」など県内外のイベントに参加 ・遊休施設を利用したカフェ (しまんと庵) の開業 (H29) ・県版 HACCP 第2ステージ認証取得 (H30) ・「AKOMEYA TOKYO 銀座」のイベント出展 (R元) ・地域の多素材を使った商品開発 (ジャム3種、シロップ) <p>◆経営体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設の整備、氷感庫の導入 (H22) →H22 県産振補助金の活用 (事業費 2,500万円) ・商人塾短期集中セミナー-in 幡多受講 (H30) ・なりわいセミナー幡多稼ごう塾受講 (R元) 	<p>◆栽培しやすい環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家定例会開催 (契約農家への栽培技術支援) (H22～) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他企業とのコラボ商品の開発 (キャラメル、ミレーサンド等) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利益率の高い商品 (生栗・焼き栗等) の販売拡大 ・道の駅「よって西土佐」との連携強化 ・栗の仕入量の拡大

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆販売力の強化	<p>販売促進（生栗・焼き栗中心）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)しまんと美野里： <ul style="list-style-type: none"> 商談会等への出展を通じた販路開拓、催事への出店、ネット販売を通じた販売拡大及び情報発信、道の駅や自社カフェ（しまんと庵）での販売を通じた地域特産品としてのPR、SNSやHP等での情報発信 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザーの活用支援、各種情報提供 				
◆経営体制の強化	<p>経営戦略の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)しまんと美野里： <ul style="list-style-type: none"> 経営分析、経営課題洗い出し、経営資源の再構築 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザーの活用支援、よろず支援拠点等の情報提供、商工会と連携した各種情報提供 	<p>経営戦略に基づく事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)しまんと美野里： <ul style="list-style-type: none"> 経営戦略に基づく事業経営 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 産振アドバイザーの活用支援、よろず支援拠点等の活用支援、商工会と連携した各種情報提供 			
◆栽培しやすい環境づくり	<p>栗生産者の収穫量アップ・栽培面積拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(株)しまんと美野里： <ul style="list-style-type: none"> 農家定例会の開催、契約農家等への各種情報提供 ●四万十市： <ul style="list-style-type: none"> 栽培拡大に向けた支援（縮間伐講習会、苗木補助、水田転作補助）、栽培負担が軽減される平地での栽培実証（モデル栗園において実施）、担い手の育成 ●県（幡多農業振興センター等）： <ul style="list-style-type: none"> 栽培技術に関する助言 				

AP 名 (実施地域)	No.20 四万十牛の生産・加工・販売体制の強化 (四万十市)
実施主体	◎(株)四万十牛本舗、西土佐中央牧場、地域事業者
AP への 位置づけ	H25.4月
事業概要	西土佐地区の四万十牛の生産者及び加工販売事業者が、生産から加工、販売まで一貫してその強化に取り組むとともに、地域の道の駅、アクティビティ、宿泊等の関連事業者と連携し、四万十牛の地域内外での認知度向上及び販売拡大を推進することにより地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R 2	R 5
売上高	1 億 9,000 万円 (H30)	1 億 9,453 万円		2 億 6,800 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新たな加工販売施設の整備・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーを活用し、加工販売に関する事業戦略検討 (H29:3回) 新加工販売施設整備 (R3.1月) →R 元産振補助金活用(事業費 1 億 1,100 万円) <p>◆商品開発及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーを活用し、ブランド力を活かした経営戦略について検討 (H26:3回) 焼肉店 (焼肉よこやま) を開業 (H27.3月) 道の駅よって西土佐と連携した商品展開開始 (食堂メニュー・惣菜・弁当を販売) (H28~) 「はれのば」への屋台 (テナント) 出店 (焼肉店) (R2.4月~) <p>◆地元事業者との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 西土佐地域産業振興推進協議会の設立(H31.2月) (構成員・・・道の駅よって西土佐、四万十・川の駅カヌー館、ホテル星羅四万十、四万十牛本舗、四万十市西土佐商工会、四万十市、県) 	<p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 畜舎増築 →H27 県レンタル畜舎施設等整備事業を活用 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 雇用の創出 H27 時点：14 人 (正規 9 人、パート 3 人、短期 2 人) →R 元時点：24 人 (正規 7 人、パート 7 人、短期 10 人) 第 11 回神戸市西部市場銘柄和牛共進会優良賞受賞 (R2.9月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 幡多地域唯一のブランド和牛としてのさらなる認知度向上及び販売拡大 将来的なさらなる畜舎増築及び担い手確保の計画検討

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆新たな加工販売施設の整備・運営	施設整備による加工・販売機能の向上及び HACCP 認証取得による衛生管理体制の向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十牛本舗： 加工販売施設の整備、県版 HACCP 第3ステージ認証取得及び取得後の衛生管理の維持・向上、加工製造の効率アップ、イトインでのパーベキュー展開、小売スペースでの販売強化、店舗 PR 機能の強化 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金による施設整備支援、HACCP 研修及びアドバイザー活用による県版 HACCP 第3ステージの認証取得支援 				
◆商品開発及び販売促進	新商品の開発・加工品の製造拡大				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十牛本舗：道の駅等で販売する土産物の開発及び製造拡大、地域産品を活用した加工品の開発及び製造拡大 ●県（地域本部等）：産業振興アドバイザーの活用提案 				
	販促活動				
<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十牛本舗：各種商談会への参加を通じた県内外飲食店等の販路開拓、ふるさと納税返礼品のさらなる充実、メディア媒体を活用した情報発信強化 ●県（地域本部等）：高知県地産外商公社やメディア媒体などの関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 					
◆地元事業者との連携強化	西土佐地域産業振興推進協議会の取り組みの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)四万十牛本舗、地域事業者（協議会）： 四万十牛加工品の販売拡大、地域資源を活かした新たな旅行商品の開発、地域の情報発信力強化の検討（顧客情報の DM 活用等） ●四万十市：協議会の運営支援、協議会メンバーの情報発信強化（HP リニューアル等）等の事業化に対する支援、ふるさと納税返礼品掲載を通じた PR ●県（地域本部等）：協議会の運営支援及び参画によるアドバイス、産業振興アドバイザーの活用提案 				
◆生産体制の強化	生産体制の強化及び畜舎増設に向けた検討				
	<ul style="list-style-type: none"> ●西土佐中央牧場： 需要に応じた生産量の拡大、将来的なさらなる畜舎増築に向けた計画の検討、担い手の育成 ●県（西部家畜保健衛生所等）： 肥育現場での助言、畜舎増築計画策定にあたってのレンタル畜舎整備事業等による支援の検討 				

AP 名 (実施地域)	No.21 売り出せ西土佐プロジェクト推進 (拠点ビジネス) (四万十市)
実施主体	◎(株)西土佐ふるさと市、四万十市
AP への 位置づけ	H24.4 月
事業概要	道の駅を核として、西土佐地域の多様な人材や事業者等が連携し、地域素材を活用した加工品の開発・販売や交流体験観光の情報発信等を行うことで、幡多地域の北の玄関口として交流人口を拡大し、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R 2	R 5
売上高	1 億 6,400 万円 (H30)	1 億 6,969 万円		1 億 7,300 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域ならではの商品づくり及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「道の駅よって西土佐」オープン (H28.4 月) →H27 木造公共施設等整備事業費補助金及び H28 木の香るまちづくり推進事業費補助金の活用 (事業費 5 億 4,700 万円) ・産業振興アドバイザー (H27:5 回、H28:3 回) 等を活用し、地元民間業者が新商品を開発 ・クラウドファンディングを活用して「鮎のコンフィ」を開発、一般販売開始 (H30.4 月～) ・旭川「北の恵み食べマルシェ」出展 (H27～) <p>◆周辺施設等・商店街等との連携 (地域拠点としての機能強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十うまいもの商店街への参加 (H28～) ・毎月テーマを決めたイベント (月次まつり) の実施 (H28～) ・愛媛県と連携した、四万十・南予横断 2 リバービューライド実施 (H28～) ・川の駅・カヌー館と連携した「ちよいのりカヌー」サービス開始 (H31.4 月) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅来場者数 : 50 万人突破 (H31.4 月) ・道の駅来場者数 : 70 万人突破 (R2.8 月) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産品を活用した加工品の開発・販売 ・地域事業者と連携した商品開発 ・地域の観光等の拠点としての情報発信機能の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域ならではの商品づくり及び販売促進	<p>既存商品・サービスのブラッシュアップ及び地域産品を活用した新たな商品開発</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市： マーケットニーズに対応した商品の改良、地域の原材料を活用した自社商品・食堂メニューの開発、地域の生産者・加工事業者への新商品開発提案 ●県（地域本部等）：商品開発及び改良について産業振興アドバイザーの活用提案 				
	<p>地域の魅力の発信を通じた、地域内外での販売拡大</p>				
◆周辺施設等・商店街等との連携(地域拠点としての機能強化)	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市： 県内外の道の駅関連イベント等への出展による認知度の向上、メディア媒体を活用したPR、県アンテナショップを活用した試験販売及びPR、ネット販売商品の充実 各種商談会等への出展、全国道の駅との連携強化、営業人材の育成 ●県（地域本部等）：県地産外商公社や関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 				
	<p>加工機能強化の検討</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市： 販売拡大に応じた設備増強の検討 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 				
◆周辺施設等・商店街等との連携(地域拠点としての機能強化)	<p>地域観光拠点としての情報発信力の強化</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市： 周辺施設等との連携した観光受入メニューの開発及び実施、研修やセミナー等への参加による観光受入ノウハウの取得、SNSやマスメディアを活用した情報発信の強化、愛媛県と連携したサイクリングイベント受入の継続実施 ●県（地域本部等）：研修・セミナー等の情報提供、関係機関への橋渡し 				
	<p>西土佐地域産業振興推進協議会の取り組みの強化</p>				
◆周辺施設等・商店街等との連携(地域拠点としての機能強化)	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)西土佐ふるさと市、地域事業者（協議会）： 事業者間の情報共有、地域資源の有効活用、新たな自然体験メニューの開発、地域の情報発信の強化等 ●四万十市：協議会の運営支援、協議会メンバーの情報発信等の事業化に対する支援 ●県（地域本部等）：協議会の運営支援及び参画によるアドバイス、産業振興アドバイザーの活用提案 				

AP 名 (実施地域)	No.22 四万十地域の素材を活用した加工商品の外商強化 (四万十市)
実施主体	◎しまんと ^{どめま} 百笑かんぱに(株)、四万十市地域商品研究会
AP への 位置づけ	H26.9月
事業概要	四万十市の漁業者、農家、加工業者、販売者が連携し、四万十地域の食材を主な原材料とする加工商品を開発・製造・販売することで、地域内外での売上を拡大し、地域活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	4,844万円 (H30)	4,056万		1億円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆自社商品の開発強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を活用し、だしパックやドレッシング等の商品を開発 ・既存自社商品の磨き上げ <p>◆高付加価値路線への販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工保管施設の整備 (H30.3月) → H29 産振補助金の活用 (事業費 2,105万円) ・県版 HACCP 第3ステージ認証取得 (H31.3月) ・県外(大阪)での商談会、オンライン商談会への出展 (R2) ・地域事業者と連携したポータルサイト開設 (R2) <p>◆地域商社機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の頑張る人づくり事業を活用して、人材育成セミナーを開催 (H27:4回、H28:7回、H29:4回) ・台湾での高知県物産展及び商談会を実施 : 県からの受託事業 (H28~29) 主催事業 (H30~R元) (食品産業総合補助金活用) ・地域の事業者との連携による、はちみつ、黒糖関連商品の販売開始 (R元~) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発 (H26~R2) : 8アイテム <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材の掘り起こしとさらなる商品開発 ・人材確保と営業力強化 ・高付加価値路線への販路拡大 ・地域商社機能 (プロデュース機能) の強化

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆ 自社商品の開発強化	<p>地域素材の掘り起こしと商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ●しまんと百笑かんぱに(株) : 地域素材の発掘、市場調査、商品開発、既存商品の磨き上げ ●県(地域本部等) : 地域素材に係る情報提供、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆ 高付加価値路線への販路拡大	<p>営業ターゲットを絞った販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ●しまんと百笑かんぱに(株) : 業界研究、営業人材の確保・育成、商談会への出展、訪問営業、ファッション・ブライダル業界等への営業強化 ●県(地域本部等) : 戦略策定に係る土佐 MBA 等の講座等の紹介、商談会等の紹介 				
◆ 地域商社機能の強化	<p>推進体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ●しまんと百笑かんぱに(株)、四万十市地域商品研究会 : 地域内事業者の情報集約、市町村との連携強化 ●県(地域本部等) : 各種支援制度に関する情報提供、行政関係者や他の事業者・生産者への橋渡し 	<p>地域商社機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●しまんと百笑かんぱに(株)、四万十市地域商品研究会 : 地域内事業者と共同での商談会出展、他社商品の取り扱い強化、地域内事業者(商品)プロデュース機能の強化、台湾など海外への外商強化 ●県(地域本部等) : 事業推進に係る土佐 MBA 等の講座等の紹介、各種支援制度に関する情報提供 			
<p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。 ・地域商社 : 農産物や加工品等の地域資源にスポットライトをあて、生産、加工、販売まで一貫してプロデュースし、地域内外に発信及び販売する組織 					

AP 名 (実施地域)	No.23 幡多地域の農水産物を活用したペット関連商品の開発・販売拡大 (四万十市)
実施主体	WAN LIFE
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	四万十市の農産物を中心に、県産素材にこだわったペット関連商品を開発し、地産外商を進めることで、地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	2,064 万円 (H30)	3,040 万円		6,000 万円

会計年度：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーを活用して、ギフトセットを開発 (H28:3回) 産業振興アドバイザーを活用して、猫用商品を開発中 (R元：3回) <p>◆販促活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーを活用して、写真の撮り方の研究、HPリニューアル及び SNS 活用強化 (H29:3回) ふるさと納税返礼品への登録 (H29～) ペット向け定期便サイト国内大手全 4 社に登録 (H30～) ペットフェスティバルやギフトショーへの出展 (H28～) 阪急梅田百貨店うめだ本店での展示販売(H28～R元) 高知市でのわんこハムづくり教室の開催 (H30) <p>◆生産体制の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 製造スペース改修及び製造機器導入 (H29) 産業振興アドバイザーを活用して、生産工程及び受発注工程を効率化 (H30:3回) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ペットおやつ食品 14 商品を開発 (H28～) ※しいたけ、鯛皮、すなごも、レバー、豚、芋、鰯、宗田節、きびなご、しいら、ささみを原材料とする 犬用スープ商品(2種類)の開発 (H29) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> さらなる商品開発 (猫用商品の原材料確保) 自社販売システムの充実 (HP 改修を検討) 加工及び集出荷の強化 新施設(ペットホテル)整備の検討

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆商品開発	ネコ関連商品及びレトルト商品の強化 <ul style="list-style-type: none"> ●WAN LIFE : 市場調査、試作品作り、原料調達方法の検討、商品化 ●県（地域本部等） : 産振アドバイザーの活用提案 		さらなる地域素材の発掘 <ul style="list-style-type: none"> ●WAN LIFE : 市場調査、試作品作り、調達方法の検討 ●県（地域本部等） : 集活センターや地域の生産者が取り組む一次産品情報の提供 		
	◆販促活動				
ITを活用した個人顧客の獲得 <ul style="list-style-type: none"> ●WAN LIFE : 各媒体（HP、SNS、ブログ）での情報発信のスキルアップ、顧客情報を活用した地域情報発信によるコアファンづくり、自社HPの多言語対応 ●県（地域本部等） : 土佐MBA等の講座等の紹介 					
新商品のPR強化 <ul style="list-style-type: none"> ●WAN LIFE : 商談会、イベント等への出展 ●県（地域本部等） : 商談会等の情報提供、新商品に関する県からの情報発信 			自社定期便システム構築の検討 <ul style="list-style-type: none"> ●WAN LIFE : 市場調査、コンセプトづくり、システム構築 ●県（地域本部等） : 産振アドバイザーの活用提案 		
◆生産体制の充実・強化	生産工程のさらなる効率化 <ul style="list-style-type: none"> ●WAN LIFE : 生産工程の継続的な見直し、県版HACCP第3ステージ認証取得 ●県（地域本部等） : 県版HACCP認証取得の支援、必要に応じた産振アドバイザーの活用提案 		新規事業展開（施設整備含む）の検討 <ul style="list-style-type: none"> ●WAN LIFE : 市場調査、事業構想の磨き上げ、事業計画策定 ●県（地域本部等） : 土佐MBA等の講座等の紹介、施設整備の支援事業の紹介 		
	施設整備 <ul style="list-style-type: none"> ●WAN LIFE : 資金調達、施設整備 ●県（地域本部等） : 産業振興総合補助金の活用可能性検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.24 四万十の地域食材を活用した商品開発・製造・販売の推進 (四万十市)
実施主体	(株)LLPしまんと
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	四万十川流域の素材を使用した菓子類の開発・製造・外商を行い、素材生産者の所得向上と雇用の創出を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
売上高	2,584 万円 (H30)	2,150 万円		3,500 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆人材確保及び人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・土佐 MBA「幡多稼ごう塾」の受講 (R 元) ◆商品ラインナップの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・紫芋かりんとう、黒糖かりんとうの販売開始 (H28) ・ぶんたんゼリーの販売開始 (H29) ・ほか商品の販売開始 (R2) ・県版 HACCP 第 2 ステージ認証取得 (H29) ◆販路開拓 <ul style="list-style-type: none"> ・「土佐の宴」など商談会への出展 (H28～R 元) ・OEM 受注拡大 (H30～) ◆生産体制の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・組織の株式会社化 (H28) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用創出 R 2 (11 月末時点) : 2 人 (正規 1 人、パート 2 人) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・慢性的な製造人員の不足の解消 ・県版 HACCP 第 3 ステージ認証取得 ・新たな定番商品の開発 ・製造施設の規模拡大 (移転)

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆人材確保 及び人材育成	雇用戦略の策定と人材確保策 の強化		人材育成の強化		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 人材確保不足の要因分析、雇用に関する 情報発信方法の研究、雇用条件の検討、高 知求人ネット登録等の情報発信強化 ●県（地域本部等）： 移住促進・人材確保センター等の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 販売戦略、商品開発、食品衛生等に係る 研修等の受講 ●県（地域本部等）： 土佐 MBA 等の研修等の紹介 		
◆商品ラインナップ の充実	OEM 受注拡大	自社新商品開発			
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 商談会等での提案、情報発信 ●県（地域本部等）： 商談会等の情報提供、情報発信 支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： コンセプトづくり、試作品づくり、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーほか各種支援制度に関する情報提 供、地域素材に関する情報提供 			
◆販路開拓	外商強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 営業人材の育成、商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 研修や商談会等の情報提供、各種支援制度に関する情報提供 				
◆生産体制の 強化	現生産体制の改善・強化			生産力強化の検討	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 現製造施設の作業工程の見直し等による生産効率向 上、県版 HACCP 第3ステージ認証取得、効率化を促 進する設備の導入検討 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーを活用した生産効率向上支援、各種 支援制度に関する情報提供、産業振興総合補助金（ス テップアップ事業を含む）の活用可能性検討 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)LLPしまんと： 施設整備の検討、候補地の検討 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金ほか支援 制度の活用可能性検討 	
<p>【用語】・OEM：「Original Equipment manufacturer」の略。他社ブランドの製品を製造すること。またはその企業。日本では「相手先ブランド名製造」などと訳される。なお、販売ブランドが流通業の場合はプライベートブランド（PB）と呼ぶことが多い。</p> <p>・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.25 幡多地域産品を活用した冷凍加工食品の開発・製造・販売の推進 (四万十市)
実施主体	(有)和 ^わ
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	地域色豊かな食材を活用した加工食品を開発・製造・販売することで、食材自体の認知度を向上させ、生産者の所得向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
売上高	2,288 万円 (H30)	1,277 万円		3,500 万円

会計年度：6～5月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆商品開発及び改良</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を利用した冷凍餃子の開発 (H28) ・県内事業者と共同での餃子シリーズや冷凍鯉タキ等商品開発及び OEM 受注) (H29～30) ・その他調味料等の商品開発 (H28～R 元) ・土佐 MBA「商人塾短期集中セミナー」、「幡多稼ごう塾」の受講 (H30、R 元) ・土佐 MBA アドバンスの受講 (H28、H30) <p>◆販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の商談会に出展 (H28～R 元) ・県内ショッピングセンターや各種産業イベントでの実演販売 (H28～R 元) <p>◆生産体制の強化・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな施設整備に向けた検討 (R 元～) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H27：5人 (正規4人、パート1人) →R2 (12月末時点)：8人 (正規4人、パート4人) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材を活用した商品開発 ・営業力の不足を補う、販売力のある事業者と連携した OEM 商品の開発及び販売拡大 ・就労支援事業と加工販売事業の相乗効果を目指した事業モデルの構築 ・加工販売拡大に対応した製造設備の充実

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商品開発及び改良	OEM商品の開発強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)和： 土佐MBAの受講、県内事業者との連携、県内外の事業者との連携によるOEM商品の共同開発及び受託開発 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆販路拡大	県外消費者へのPR強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)和： 県外商談会への出展、自社HPの強化、実演販売の実施、県内外の事業者との連携によるOEM商品の販売拡大 ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、PR戦略に係る産振アドバイザーの活用提案 				
◆生産体制の強化・充実	事業モデルの再検討		加工販売拡大のための施設整備の検討		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(有)和： 土佐MBAの継続受講、事業モデル構想作り ●県（地域本部等）： 農商工福祉をはじめとする関係機関への橋渡し 		<ul style="list-style-type: none"> ●(有)和： 新たな施設整備を含む事業計画の検討 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 		
<p>【用語】・OEM：「Original Equipment manufacturer」の略。他社ブランドの製品を製造すること。またはその企業。日本では「相手先ブランド名製造」などと訳される。なお、販売ブランドが流通業の場合はプライベートブランド（PB）と呼ぶことが多い。</p>					

AP名 (実施地域)	No.26 地域商業活性化拠点「はれのば」を核とした中心市街地の活性化 (四万十市)
実施主体	◎四万十市中心商店街活性化協議会、◎四万十にぎわい商店(株)、四万十市
APへの位置づけ	H29.4月
事業概要	中心商店街内に整備した地域商業活性化拠点「Simanto+Terrace はれのば」を核に、県内外の観光客といった新たな顧客を官民協働で呼び込むことにより、商店街等に継続的な賑わいをもたらし、中心市街地の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 中心商店街エリア内の売上額 ※	8億3,100万円 (R元)	同左		9億1,411万円
(2) 中心商店街エリア内の通行量 ※	平日 5,226人 休日 4,036人 (H26~30平均)	同左		平日 6,005人 休日 4,647人
(3) 新規出店者数	0店舗 (R元)	同左		8店舗 (R元~5累計)
(4) 売上額 (四万十にぎわい商店(株))	0円 (R元)	同左		1,861万円

※ 集計年度：1~12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆拠点施設の魅力向上と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設の運営主体が「四万十にぎわい商店(株)」に決定 (H29.6月) ・拠点施設の基本設計、実施設計 (H30~R元) ・拠点施設の名称が「Simanto+Terrace はれのば」に決定 (R元.12月) ・拠点施設の整備(R元.10月着工~R2.3月完成) →R元 地域経済活性化拠点補助金の活用 (事業費 1億3,800万円) ・施設オープン (R2.4月) ・はれのば PR 動画作成 (R2) ・グッドデザイン賞受賞 (R2) ・「日本空間デザイン賞 2020 (日本空間デザイン協会/日本商環境デザイン協会)」銅賞受賞 (R2) ・主催、持込みイベントの開催 (R2~) <p>◆中心市街地エリアへの経済波及促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市中心商店街活性化協議会の設立 (H30.10月) 	<p>(構成員…四万十市商店街振興組合連合会及び同女性部、市内6商店街組合、四万十にぎわい商店(株)、まちづくり四万十(株)、中村商工会議所、県中小企業団体中央会、四万十市、県)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小機構「中心市街地商業活性化診断・サポート事業」の活用 (H29~R元) ・産業振興アドバイザーを導入して、四万十市中心商店街活性化計画づくりを推進 (H30:5回) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市中心商店街活性化計画の策定 (R元) ・直営店「cafe n2」売上額：949万円 (R2.12月末時点) ・直営店「cafe n2」入込客数：7,923人 (R2.12月末時点) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設の魅力向上及び経営確立 ・拠点施設によるシャワー効果の最大化 ・四万十市中心商店街活性化計画の実行

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆拠点施設の 魅力向上と情報 発信	拠点施設のカフェ及び店舗の魅力向上				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十にぎわい商店(株) : カフェメニュー充実のための地域の食材調査、試作品づくり、市場調査（消費者の意見集約）、メニュー改良、新たなメニュー化の実現、テナント入居店舗のメニュー・サービスの改善提案、新たな加工商品の開発及び拠点施設での販売の検討 ●県（地域本部等） : 試作品づくりへのアドバイスを獲得するための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	拠点施設に人を呼び込む仕組みづくり				
◆中心市街地工 リアへの経済波 及促進	エリア情報の集約および情報発信基盤の整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十市中心商店街活性化協議会、四万十にぎわい商店(株)、四万十市 : 商店街店舗同士の情報共有、店舗の相互紹介サービスの実施とマップの作成、掲示板やチラシ等の既存の実媒体の強化、広報誌の新規発行、まちのポータルサイトの新規開設 ●県（地域本部等） : 商店街等振興計画推進事業費補助金による支援、産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
	中心商店街に人を呼び込む仕組みづくり				
	店舗新規参入の促進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●四万十市中心商店街活性化協議会、四万十市 : チャレンジショップ事業の推進、エリア内の空き店舗情報の共有 ●県（地域本部等） : 空き店舗対策事業費補助金による支援、その他事業各種支援制度に関する情報提供 				

AP名 (実施地域)	No.27 道の駅「ふれあいパーク・大月」を基盤とした産業振興と賑わいの創出 (大月町) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一財)大月町ふるさと振興公社、◎大月町
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	道の駅「ふれあいパーク・大月」を産業振興と町全体の賑わい創出の拠点と位置付け、農林畜水産品の販売や特産品の開発・販売など地産地消・外商を推進するとともに、町内外から人が集う交流の場を提供し、道の駅を大月町の基盤（エンジン）として多機能型地域拠点へのモデルチェンジに取り組み、持続可能なまちづくりと地域の活力向上を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	1億9,400万円 (H30)	2億700万円		2億5,000万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地場産品の販売促進、特産品の開発・販売の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 加工施設整備、ネット通販、カタログ販売の仕組みづくり及び商談会展（H21～22） → H21 産振補助金の活用（事業費 2,161万円） → H22 産振補助金の活用（事業費 1,854万円） 産業振興アドバイザーを導入して、商品力の強化（H26:5回） 産業振興アドバイザーを導入して、通販サイトのリニューアル（H30:5回） 目指せ！弥太郎 商人塾 in 幡多の受講（H30） <p>◆賑わいの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 「道の駅」の施設改修整備（H22、24、26） ふれあい市出品者協議会を設立し、協議会との共催による月1回（第3日曜）ふれあいマーケット開催（H27～） イベント開催（年5回）※R2はコロナの影響で中止 	<p>◆道の駅のモデルチェンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> 道の駅「ふれあいパーク・大月」多機能拠点化基本構想策定（H29.11月） 道の駅「ふれあいパーク・大月」多機能拠点化基本計画策定（H30.6月） 産業振興アドバイザーを導入して、満足度向上に向けて受入体制を強化（R2：4回） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 雇用の創出 H20：12人（正規5人、パート7人） → R元：18人（正規4人、パート14人） 「道の駅」来客数（レジ通過数） H20：17.0万人 → R元：19.5万人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 供給体制（生産体制）の確保 売店商品の販売戦略づくり（大月ブランドの確立） さらなる集客アップに向けた戦略づくり

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地場製品の販売促進、特産品の開発・販売の強化	<p>地産地消・外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一財)大月町ふるさと振興公社・町内事業者等： 供給（生産）体制の確保、展示商談会等への参加、県版 HACCP 認証取得、支援制度の活用 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の情報提供・活用支援、展示商談会等の紹介、衛生管理等に関する講習会等の紹介 				
	<p>新商品開発・既存商品の磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一財)大月町ふるさと振興公社・町内事業者等： 新商品開発、商品力強化、パッケージ改良、販促ツール製作・発信、支援制度の活用 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の情報提供・活用支援、産振アドバイザーの活用支援、土佐 MBA 等の講座等の紹介 				
◆賑わいの創出	<p>事業者等との連携によるイベント等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一財)大月町ふるさと振興公社・町内事業者等： ふれあいマーケット開催、既存イベント充実、新たなイベント企画・実施、支援制度の活用 ●県（地域本部等）：各種支援制度の情報提供・活用支援、イベントの企画・実施支援及び連携調整 				
	<p>滞在交流の促進・ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一財)大月町ふるさと振興公社・町内事業者等・大月町： 物販及び飲食の機能が相互にリンクした一体感のある場の醸成、町内の娯楽・滞在施設と道の駅を連結する（町内各ゾーンや各施設等をつなぐ）ネットワークの形成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度の情報提供・活用支援 				
◆道の駅のモデルチェンジ	<p>第一期工事（物販棟等）、第二期工事（センター棟等）の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大月町： 第一期工事（物販棟新築工事・駐車場整備等） 第二期工事（センター棟新築工事・公園整備等）の検討 ●県（地域本部等）： 道路管理者・道路事業者との調整、産業振興総合補助金等支援制度の活用可能性検討 				
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.28 三原村のどぶろくによる地域活性化 (三原村)
実施主体	土佐三原どぶろく合同会社
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	地域の特産品である「どぶろく」にかかる村内の組織体制を強化し、地域が一体となって販売促進を図ることで地域活性化につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	1,479万円 (H30)	1,463万円		1,900万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者持続化補助金を活用して、販売促進のためのパンフレットを作成 (H28.4月) ・新規格瓶の作成による販売開拓に向けて、クラウドファンディングを実施 (H29.7~9月) ・産業振興アドバイザーを導入して、販売促進のノウハウを習得 (H31.1月:2回) ・新たな顧客獲得に向けて、カクテルバーでの「どぶろくカクテル」及び「どぶろくスイーツ」のメニュー化 (R元.6月) ・女性事業者等活躍促進事業を活用して、販促物の作成及び県外イベントに参加 (R元.9~11月) ・県内のイベントに参加 (H28~) ・県内外の商談会に出展 (H28~) ・「甘酒」の製造量拡大に向け、加工場を整備 (R2.12月) <p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐三原どぶろく合同会社を設立し、資材の受入や商品の受注等窓口を一本化 (H28.7月) ・産業振興アドバイザーを導入して、販売戦略や情報発信のノウハウを習得 (H29.2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・伴走型小規模事業者支援事業を活用して、キャッシュレス対策や会計処理のノウハウを習得 (H30~R元) ・軽減税率対策補助金を活用して、キャッシュレス対応レジを導入 (H31.4月) ・HACCPアドバイザーを導入して、衛生管理や危害分析のノウハウを習得 (H30~R元) ・よろず支援拠点のアドバイザーを導入して、商品開発やネット販売に関するノウハウを習得 (R2.9~11月) ・新商品開発に向け、先進地視察を実施 (R2.11月) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H27:0人 → R元:1人(パート) ・新商品開発 R元:5品 ・衛生管理体制の強化 高知県版 HACCP 第2ステージ認証取得(6軒中4軒取得完了(R元.11月時点)) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる販路拡大に向け、販売促進活動の強化 ・村内への誘客促進に向け、どぶろく関連企画の提案 ・安心安全な製品供給に向け、衛生管理体制の構築

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆販売促進	県外展開に向けた基盤づくり			継続的な取引先の確保・拡大	
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : 新商品の試作・提案、幡多地域内のどぶろく取扱店の掘り起こし、社会情勢等の情報収集、販売促進体制の構築、幡多及び県外向けの商談会への出展 ●県（地域本部等） : 県外販路に関する情報提供、セミナー・商談会等の紹介、関係者への橋渡し 			<ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : 幡多及び県外販路の開拓（県外の高級飲食店への商流構築等） ●県（地域本部等） : 県外販路に関する情報提供、セミナー・商談会等の紹介、関係者への橋渡し 	
◆組織体制の強化	衛生管理、組織体制の強化策の検討			衛生管理、組織体制の整備及び構築	
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : 県版 HACCP の認証取得・検討、商談能力の向上 ●県（地域本部等） : HACCP 現地確認アドバイザーの活用提案、土佐 MBA 等の講座の紹介 			<ul style="list-style-type: none"> ●土佐三原どぶろく(同) : 一般衛生管理マニュアルの作成、事務局体制の見直し ●県（地域本部等） : 各種支援制度に関する情報提供、関係者への橋渡し 	
<p>【用語】 ・HACCP : 「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・SNS : 「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的な SNS としては、Facebook などがある。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.29 三原産トマトを中心とした加工・販売の推進 (三原村)
実施主体	(株)ベストグロー
AP への 位置づけ	H28.4月
事業概要	地域産トマトを活用した加工品の生産体制を強化するとともに、地産外商による販路拡大を進めることで、新たな雇用の創出による地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	9,395万円 (H30)	9,425万円		1億円

会計年度：4～3月（H30）、12～11月（R元～）

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者持続化補助金を活用して、商品パッケージ及びカタログを作成（H28.7月） ・産業振興アドバイザーを導入して、試作商品の商品化に向けたノウハウを習得（H29.2月） ・産業振興アドバイザーを導入して、新商品のテストマーケティングを実施（H29.5月） ・道の駅あぐり窪川での、試作商品のテストマーケティングの実施（H30.10月） ・県内のイベントに参加（H28～） ・県内外の商談会に出展（H28～） ・JAL 国内線ファーストクラスの飲料に採用（R2.6月） <p>◆生産・加工体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり・商業・サービス革新補助金を活用して、ジュース製造機器を導入（H28.10月） ・食品衛生法の改正の対応に向け、原料原産地表示制度セミナー等を受講（H31.2月） ・自社の経営分析及び事業戦略の見直しに向け、ナリワイセミナー幡多稼ごう塾を受講（R元.5月） ・HACCP アドバイザーを導入して、衛生管理や危害分析のノウハウを習得（H30～R元） 	<ul style="list-style-type: none"> ・HACCP の認証取得に必要となる書類作成講習会への参加（R2.9月） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H27：2人 → R元：4人（正社員） ・新商品開発 R元：1品 ・取引件数 H28：120件 → H30：150件 ・衛生管理体制の強化 県版 HACCP 第2ステージ認証取得（R元.8月） <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売リスク分散に向け、カゴメ(株)以外の取引先の確保 ・さらなる販路拡大に向け、海外展開を視野に入れた販売促進活動の強化 ・労働時間の効率化に向けた加工機器整備

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆販売促進	県外・海外展開に向けた基盤づくり			海外進出・貿易開始	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロウ： GAP 取得に向けた情報収集、貿易セミナー等でのノウハウの習得、海外事情等の情報収集、海外向けの商談会への出展 ●県（地域本部等）： 貿易に関する情報提供、セミナー及び商談会等の紹介、関係者への橋渡し 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロウ： 海外販路の開拓（海外の高級量販店への商流構築等） 	
	顧客ニーズを意識した規格・デザイン等の見直し			製品のプロモーション活動	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロウ： セミナー等で得た情報に基づいた商品規格等の見直し ●県（地域本部等）： 顧客ニーズを反映した商品づくりに関するアドバイスを得るための産業振興アドバイザーの活用提案、その他各種支援制度の紹介 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロウ： 商談会等への出展、プロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 高知県地産外商公社への橋渡し支援 	
◆生産・加工体制の強化	ジュース製造ラインの見直し			設備の入替・稼働	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロウ： ジュース製造工程で発生している課題の整理、県版 HACCP 第3ステージの認証取得 ●県（地域本部等）： 情報提供、関係機関への橋渡し、その他各種支援制度の紹介 			<ul style="list-style-type: none"> ●(株)ベストグロウ： 入替加工機器及び活用する支援制度の確定、機器稼働開始 ●県（地域本部等）： 機器の導入に関して産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供 	
<p>【用語】 ・GAP：「Good Agricultural Practice」の略。農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのこと。</p> <p>・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p>					

分野	商工業
----	-----

AP 名 (実施地域)	No.30 黒潮町産天日海塩を活用したビジネスの推進 (黒潮町)
実施主体	(有)ソルティープ
AP への 位置づけ	H28. 4 月
事業概要	黒潮町の特産品づくりの取り組みとして推進する中心的な役割を担う天日海塩の増産体制を整備し、新たな商品の開発を行うとともに、塩に関連した観光体験事業を強化、充実させることで、黒潮町の新たな地域ビジネスを確立し、他事業者と連携を図りながら、地域の所得向上につなげる。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R 2	R 5
売上高	2,195 万円 (H30)	2,546 万円		2,823 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産施設の拡大及び体験受入の体制強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾の受講 (H28) ・老朽した佐賀製塩所の改修 (H28.11 月) ・看板設置 (H29.2 月) →H28 観光拠点整備事業活用 ・HACCP 研修受講 (H30.9 月) ・PRP 研修受講 (H30.10 月) ・灘製塩所の新規結晶ハウス整備 (R 元.10 月) →R 元産振補助金の活用 (事業費 567 万円) ・HACCP アドバイザー活用 (R 元 : 2 回、R 2 : 1 回 (R2.11 月末時点)) <p>◆販路開拓・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販促ツール作成 (H28.8 月) →H28 小規模事業者持続化補助金活用 ・ホームページ作成 (H30.3 月) →H29 黒潮町産業振興推進事業費補助金活用 ・県内外での商談会等への出展 H28: 3 回、H29 : 4 回、H30: 8 回、R 元 : 6 回 R 2 : 2 回 (R2.11 月末時点) <p>◆人材確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地指導での製塩技術者の育成 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・製塩量 H28 : 4,338kg→H30 : 7,000kg→R 元 : 7,500 kg ・塩づくり体験受入 H28 : 289 人→H30 : 520 人→R 元 : 505 人 ・県内事業者との商品開発 12 品 (H28~R2.11 月末時点) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産体制のさらなる強化 ・さらなる販路拡大に向けた県版 HACCP 第 3 ステージ認証取得及び販売促進 ・生産体制の強化に伴う人材の確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産施設の拡大及び体験受入の体制強化	HACCP取得 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ： 県版 HACCP 第3ステージ認証取得 ●県（地域本部等）： HACCP 研修及びアドバイザー活用による認証取得支援 		新規結晶ハウス整備検討・整備工事・稼働 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ： 事業計画の作成、基本設計、実施設計、工事、生産規模拡大、塩づくり体験受入体制の強化 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金による施設整備支援 		
	◆販路開拓・販売促進				
各種商談会への出展 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ：各種商談会への出展を通じた販路開拓、商品のさらなる充実、メディア媒体を活用した情報発信強化 ●県（地域本部等）：高知県地産外商公社やメディア媒体などの関係機関への橋渡し、各種支援制度に関する情報提供 					
販促活動 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ： 原料供給による連携事業者との関係性強化及び新商品開発、商品規格の種類増加、塩づくり体験者への商品 PR ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 					
◆人材確保					
製塩作業を実践しながら人材（担い手）の育成 <ul style="list-style-type: none"> ●(有)ソルティープ： 人脈等を活用した後継者の確保、OJTによる育成 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 					
<p>【用語】・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハザップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・PRP：「Prerequisite Program」の略。食品安全衛生上におけるハザードを減少させるために前提となるルールをつくり、管理する手段のこと。</p> <p>・OJT：「On The Job Training」の略。実際の職務現場において、業務を通して上司や先輩職員が部下の指導を行う教育訓練のこと。</p>					

分野	商工業
----	-----

AP 名 (実施地域)	No.31 黒潮町産天日塩の販売拡大及び地域ブランド化の推進 (黒潮町)
実施主体	◎土佐のあまみ屋、黒潮町商工会
AP への 位置づけ	R3.4月
事業概要	新たな採かん施設・結晶ハウスを核として、天日塩の生産量不足による売上げの機会損失を解消し、新たな加工品の開発・販売を行うとともに、黒潮町商工会による「地域ブランド化」の推進により、黒潮町産の天日塩全体の販売拡大と知名度の向上を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	2,442 万円 (R元)	同左		3,743 万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆生産体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザー(発掘支援型)の活用 (R2) 土佐 MBA ナリワイセミナーの受講 (R2) <p>◆販売拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> 委託による加工品(米味噌)の開発・販売 (H23~) ネット通販の検討・準備 (R2) <p>◆地域ブランド化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域団体商標制度についての勉強会開催 (R2) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 雇用の創出 R2: 7人 「本場の本物※」認定 (H21) ※(一社)食品産業センターが認定する地域食品ブランドの表示基準 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 生産量不足の解消 新規加工品の開発・販売 新規採かん施設及び結晶ハウスの整備 県版 HACCP の認証取得 地域ブランド化の推進

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆生産体制の強化	新規採かん施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のあまみ屋：農地転用等の手続き、採かん施設整備、既存結晶ハウス内の結晶箱の増設 ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 		新規結晶ハウスの整備 <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のあまみ屋：新規結晶ハウス整備 ●県（地域本部等）：産業振興推進総合支援事業費補助金の活用 		
	衛生管理体制の強化及び人材確保・育成 <ul style="list-style-type: none"> ●土佐のあまみ屋：県版 HACCP 認証取得に向けた取り組み、雇用拡大、従業員教育の実施 ●県（地域本部等）：県版 HACCP に関する講習会及び研修会等に係る情報提供、その他各種支援制度に関する情報提供 				
◆販売拡大	食品加工業者との連携・加工品開発、販売				
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐のあまみ屋：ネット通販の開始、新たな加工品の開発 ●県（地域本部等）：商品開発のための産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆地域ブランド化の推進	地域ブランド化の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●黒潮町商工会：地域団体商標制度への出願検討、町内事業者の合意形成、地域認証制度の創設 ●県（地域本部等）：地域の頑長の人づくり事業の提案、各種支援制度に関する情報提供 				
【用語】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体商標制度：地域の産品等について、事業者の信用の維持を図り、「地域ブランド」の保護による地域経済の活性化を目的として平成18年4月1日に導入された制度。「地域の名称」と「商品（サービス）名」等の組み合わせで登録可能。 ・地域認証制度：「製法基準」「産地基準」「安全基準」を設定し、基準をクリアした商品に対して認証を付与する制度。 					

AP名 (実施地域)	No.32 佐賀地域の資源を活用した拠点ビジネス推進 (黒潮町)
実施主体	◎(株)なぶら土佐佐賀、黒潮町
APへの位置づけ	H24.4月
事業概要	地元の魚介類や農産物を使ったレストラン、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光関連情報発信機能を有する道の駅「なぶら土佐佐賀」を中心として、地域食材の活用や地域の魅力の発掘・発信に取り組むことにより、地域の所得向上と交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	2億1,628万円 (H30)	2億1,576万円		2億2,600万円

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆施設整備及び組織体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅設立準備委員会を設立 (H21.4月) ・(株)なぶら土佐佐賀を設立 (H25.10月) 指定管理者としての承認 (H25.12月) ・道の駅「なぶら土佐佐賀」施設を整備 (H26.2月) →H25 産振補助金の活用 (事業費1億7,000万円) ・道の駅「なぶら土佐佐賀」オープン (H26.4月) ・町外の道の駅視察 (H28～) ・接遇研修実施 (H29.2～3月) →H28 産振アドバイザー事業活用 (3回) <p>◆町内の事業者と連携した商品開発・販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮一番館から惣菜メニューを仕入れフードコートで提供 (H26～28) ・道の駅ビオスおおがたとの情報交換会 (H29～) ・町内事業者と連携したPR番組の作成 (R元) →R元 黒潮町産業振興推進事業費補助金活用 <p>◆観光案内等機能充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光案内板及び外国語版パンフレット作成 →H25 高知県観光案内板等整備事業費補助金の活用 ・幡多広域観光協議会によるデジタルサイネージ設置 (H28.4月) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・雇用の創出 H26 : 18人 (正規5人、パート13人) →H30 : 15人 (正規9人、パート6人) →R元 : 15人 (正規10人、パート5人) ・直販所の売上 (指標の内数) H26 : 9,164万円 → H30 : 9,260万円 →R元 : 9,168万円 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイパス延伸と連動しての敷地面積の拡大 ・誘客促進のための町内関連施設やイベントとの連携強化 ・幡多の東の玄関口としての観光コーナーの充実

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆施設整備及び組織体制の充実	店舗拡大に向けた協議		バイパス延伸に伴う店舗規模拡大		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： コンセプトづくり、市場調査（消費者の意見集約）、基本計画作成 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金（ステップアップ事業）及び産業振興アドバイザーの活用提案 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： 基本設計、実施設計、工事、開業準備 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 		
	人材育成・人的体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： 店舗経営改善、研修会・セミナー等の受講 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、研修会・セミナー等の情報提供 				
◆町内の事業者と連携した商品開発・販売促進	地域食材を活用した特産品と飲食施設提供メニューの開発・販促 PR				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： フードコートメニュー・テイクアウト商品の開発、鮮魚コーナー設置検討 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案 				
◆観光案内等機能充実・強化	町や幡多広域、町内関連施設等との連携、強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)なぶら土佐佐賀： 道の駅「ビオスおおがた」との連携・情報共有の強化、観光案内所として幡多広域イベント等情報発信機能の強化 ●県（地域本部等）： 関係機関への橋渡し 				

AP 名 (実施地域)	No.34 黒潮町の地域資源を中心とした防災関連商品づくりの推進 (黒潮町)
実施主体	◎(株)黒潮町缶詰製作所、黒潮町
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	農水産物等、地域産品を活用した防災関連食品の製造・販売体制を構築し、「地産」・「地消」・「外商」を図ることで、雇用機会の創出及び地域生産者の所得向上につなげていく。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R 2	R 5
売上高	7,600 万円 (H28～30 平均)	9,600 万円		1 億円

これまでの主な動き	
<p>◆施設・体制の充実強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場を整備 (H26.3月) 4月から稼働 ・(株)黒潮町缶詰製作所 (第三セクター) を設立し、黒潮町特産品開発推進協議会の事業を継承 (H26.3月) ・品質管理体制強化に向け専門家からなるアドバイザーチームを編成 (H27) ・作業施設の改修工事 (H29.3月) ・HACCP 認証取得に向けた研修受講 (H28) ・HACCP アドバイザー制度活用 (H29) →全商品が県版 HACCP 第3ステージ認証取得 (H31.3月) <p>◆商品開発・販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県防災関連製品認定 (H27.12月) ・OEM の販路拡大強化 (H28～) ・高知家うまいもの大賞 2019 審査員特別賞受賞 (H30.12月) ・ホームページリニューアル (H30.3月) →H29 黒潮町産業振興推進事業費補助金活用 ・中期事業戦略を策定 (R 元～) →高知県産業振興センター事業戦略策定支援活用 ・商談会への出展 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発 H26～R 元累計 37 品目 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場移転に向けた計画策定 ・人材育成及び人員確保 ・新規取引先の拡大 ・新商品開発及び域内産品を活用できるレシピの開発

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆施設・体制の 充実強化	工場移転に向けた計画策定				工場建設工事 新工場稼働
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 基本構想作成、用地買収 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 施設整備 ●県（地域本部等）： 産業振興総合補助金の活用提案 		
◆商品開発 ・販路開拓	組織体制の強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 自立的な運営体制の構築、HACCPに基づく衛生管理の維持、包装食品技術管理者の取得、作業の効率化、パート職員の正職員雇用の検討 ●県（地域本部等）： 高知県産業振興センターによる支援（事業戦略策定支援） 				
◆商品開発 ・販路開拓	新商品の開発・既存商品の改良				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 試作品づくり、製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆商品開発 ・販路開拓	商談会・展示会への参加				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(株)黒潮町缶詰製作所： 商談会等への出展 ●県（地域本部等）： 商談会等の紹介、関係者への橋渡し支援 				
<p>【用語】 ・HACCP：「Hazard Analysis and Critical Control Point」の略。日本語では「危害分析重要管理点」と訳されており、「ハサップ」と呼ばれている。製造における重要な工程を連続的に監視・記録することによって、一つひとつの製品の安全性を保証しようとする食品の衛生管理手法のこと。</p> <p>・OEM：「Original Equipment Manufacturer」の略。他社ブランドの製品を製造すること、またはその企業。日本では「相手先ブランド名製造」などと訳される。なお、販売ブランドが流通業の場合はプライベートブランド（PB）と呼ぶことが多い。</p>					

AP名 (実施地域)	No. 35 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進 (幡多地域全域) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト、宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	(一社)幡多広域観光協議会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	「幡多広域観光振興計画(第Ⅱ期計画)」に基づき、マーケティング機能を強化し、データに基づくエリアプロモーションを実施することで幡多地域全体への宿泊者数の増加を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
(1) 延べ宿泊者数	398,797人 (H30)	416,420人		443,000人
(2) 外国人延べ宿泊者数	12,101人 (H30)	13,458人		15,400人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化及び増員 (H22.6月) 「幡多広域観光振興計画」(H27~) 日本版DMO候補法人登録 (H28.8月) 日本版DMO登録 (H31.3月) 「幡多広域観光振興計画(第Ⅱ期計画)」(R2~) <p>◆商品造成・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2種旅行業取得 (H22.11月) 「はた博」の開催 (H25.7~12月) 「はた旅」の開催 (H26~) 土佐の観光創生塾の受講 (H28~) 「はた旅クーポン」実施 (R2) <p>◆広報PR</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページを活用した情報発信 パンフレット・ガイドブック等の充実・強化 旅行会社等へのセールスプロモーション デジタルプロモーション実施 	<p><主な成果></p> <p>◆商品造成・誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 誘客力の高い又は顧客ニーズに対応できる体験商品造成 →はた旅体験商品数：104商品 (R元) 教育旅行受入及び体験プログラムの造成 →15団体、862人(R元) 造成プログラム：1件 (R元) 旅行会社向けの旅行商品セールス →商品販売数：37件、969人 (R元) 外国人観光客向け旅行商品セールス →延べ宿泊数：13,458人 (R1) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のマーケティング機能の発揮 外国人宿泊者数の伸び率向上 広域観光組織として、域内の消費を最大化させる取り組みの推進

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆商品造成・誘客促進	商品化及び商品化支援による地域の魅力創出の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 既存商品の磨き上げ、新商品の開発、宿泊につなげるための地域の魅力創出 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
	旅行会社等へのセールスの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 宿泊を伴う教育旅行、団体旅行を増やすためのセールスの強化 関係者が様々な販路や制度を活用して、利用者を増やすための支援 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆広報PR	ブランド形成による地域認知度向上の推進、マーケティングに基づくプロモーションの推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 「幡多地域」のリブランディング、広報・PRによるブランドの浸透、宿泊者マーケティングに基づくプロモーションの仕組みの構築及び実施 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
◆組織体制の強化	来訪者満足度を向上するための地域受入態勢整備を推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 広域に関わる観光周遊企画の立案・情報提供・発信の推進、広域観光に関わる地域の受入態勢基盤強化、人材育成 ●県（地域本部等）： 産業振興アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 				
<p>【用語】・DMO：「Destination Management Organization」の略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.36 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化 (幡多地域全域)
実施主体	◎(一社)幡多広域観光協議会、幡多6市町村及び観光協会等
APへの位置づけ	H27.9月
事業概要	土佐西南大規模公園に整備されたスポーツ施設を地域資源の核として活用し、幡多広域におけるスポーツと体験型観光を融合させたスポーツツーリズムを推進することによって、交流人口の拡大と地域経済の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
延べ宿泊者数	11,964人 (H30)	11,773人		15,000人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆受入態勢の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工芝グラウンド完成(H29) ワンストップ窓口機能の整備・運用(H28～) 旅館組合、集落活動センター等と連携した宿泊受入態勢の整備(H28～) スポーツ+体験観光をセットにした観光商品の造成・受入態勢の整備(H28～) 新型コロナウイルス感染症対策の実施(R2) 受入運営ガイドラインの作成 <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ施設を紹介するポータルサイトを開設(H28～) アドバイザーを活用したセールスプロモーション(H29～) 市町村、関係団体が連携して関西を中心とした西日本・関東エリアへの誘致活動の展開(H28～) ゴルフ合宿等の誘致の取り組みを開始(H28～) →H30・R元 産振アドバイザーの活用(6回) 砂浜トレーニングのプログラム作成(R2) →R2 産振アドバイザーの活用(5回) 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ大会・合宿のセールス及び受入 →大会・合宿数：86回(R元) 大方高校女子サッカー部設立(R2.5) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 人工芝グラウンドを含む施設等のPR促進 スポーツツーリズムにかかる広域観光協議会及び各市町村の体制の充実 観光コンベンション協会や各種競技団体等の関係機関との連携強化 地域の受入態勢づくり

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆受入態勢の整備	<p style="text-align: center;">受入態勢の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： 市町村・観光協会等との連携、ホームページを活用した管内スポーツ施設の情報及び大会・合宿情報の提供 ●NPO 砂浜美術館： スポーツツーリズム推進会議の開催、関係事業者・集落活動センター等と連携した宿泊等受入態勢の充実・強化、リピーターの確保 ●幡多6市町村及び観光協会等： スポーツ合宿・大会等の誘致及び受入 ●県（地域本部等）： 協議会・推進会議への参画によるアドバイス、産業振興アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、各種支援制度に関する情報提供 				
◆誘客促進の取り組み	<p style="text-align: center;">PR・セールスプロモーション活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(一社)幡多広域観光協議会： アドバイザーを活用した合宿やサッカー大会のセールスプロモーション及び企画運営 ●NPO 砂浜美術館： 大会の運営、市町村及び関係団体との連携、関西を中心とした西日本・関東エリアへのセールス活動の展開 ●県（地域本部等）： 観光コンベンション協会、市町村等と連携したセールス活動支援、各種支援制度やスポーツツーリズムに関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.37 宿毛市の地域資源を活用した観光振興 (宿毛市) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	◎(一社)宿毛市観光協会、宿毛市
AP への位置づけ	H21.4月
事業概要	地域の観光推進体制の強化と、宿毛市の資源を活用した体験型観光商品の造成に取り組むとともに、幡多地域全体で連携して誘客を促進することにより、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
市内の延べ宿泊客数	9.1万人 (H30)	8.6万人		9.85万人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ、推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県歴史観光資源等強化事業を活用し、観光周遊コースマップ、ロードバイク、観光案内板を整備 (H28～29) ・高知県観光拠点等整備事業を活用し、電動アシスト自転車やゴム製カヤック、サイクルスタンド (H30) 及び横瀬川ダムの壁面にクライミングコース、大島桜公園サイクリングロードを整備 (R元) ・土佐の観光創生塾の受講 (H28～30) <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿毛の魚おもてなしプロジェクトとして高知県観光拠点整備事業を活用し、「宿毛のしゃぶしゃぶ」のメニューを開発 (H29) ・宿毛まちなえき「林邸」オープン (H30) ・高知県歴史観光資源等強化事業を活用し、「志国高知 幕末維新博」クーポン券の配布 (H28～30) <p><主な成果></p> <p>◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ、推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロードバイク貸出数：136台 (H29～R2.9月) ・サイクルスタンドの設置：16台 	<ul style="list-style-type: none"> ・eバイク貸出数：105台 (H30～R2.9月) ・ゴム製カヤック等貸出数：3台 (R元～R2.9月) <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿毛まちなえき「林邸」の入込客数：11,133人 (R元) ・「宿毛の魚しゃぶしゃぶ」のメニュー提供店舗：8店 (H29) ・「志国高知 幕末維新博」クーポン券協力店数：飲食14店舗、宿泊14施設 (H28～30) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体や地域住民と連携した体験メニューづくり ・広域的な周遊観光に向けた取り組み ・リピーターの確保及び魅力あるイベントの実施などによる誘客促進

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
<p>◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ、推進体制の強化</p>	<p>体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市観光協会、宿毛市： <ul style="list-style-type: none"> 「食」や「歴史」、「自然」を活用した周遊・体験型プログラムの造成・磨き上げ、プロモーション活動の強化 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 体験プログラムの造成・磨き上げに伴う施設整備及び備品購入のための支援策の検討、プロモーション活動に伴う支援 <p>観光関係人材の育成及び推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市観光協会、宿毛市： <ul style="list-style-type: none"> 県や市町村の人材育成制度等を活用した観光関係人材のスキルアップ ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 参加者への周知及びフォローアップ 				
<p>◆誘客促進の取り組み</p>	<p>広域連携による誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宿毛市観光協会、宿毛市： <ul style="list-style-type: none"> 「幡多広域観光振興計画」に基づく広域観光組織と連携した誘客促進の強化 宿毛まちなえき林邸を拠点とした観光・交流事業を企画、実施 市の特産物を活用したイベントの企画、実施 フィッシングやサイクリング、マリンアクティビティを中心とした誘客促進の強化 ●県（地域本部等）： <ul style="list-style-type: none"> 各イベントに関する情報提供、プロモーション活動に伴う支援、その他各種支援制度に関する情報提供 				

AP 名 (実施地域)	No.38 竜串地域の観光再生構想の推進 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎竜串海洋観光クラスター推進協議会、土佐清水市、(一社)土佐清水市観光協会、NPO 竜串観光振興会、観光事業者、ガイド団体
AP への位置づけ	H21.4 月
事業概要	県立足摺海洋館のリニューアルオープンや足摺宇和海国立公園竜串ビジターセンター及びスノーピーク土佐清水キャンプフィールドのオープン等を地域観光再生の好機と捉え、地域資源を活用した観光商品づくりを行う地域団体と連携して、竜串地域が一体となって観光振興に取り組むことにより、地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R2	R5
入込客数	8.7 万人 (H30)	8.8 万人		17 万人

集計期間：1～12 月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新たな観光施設を核とした、事業者間連携による誘客の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スノーピーク土佐清水キャンプフィールドオープン (H31.4 月) → H30 観光拠点補助金の活用 (事業費:3 億 8,600 万円) ・足摺宇和海国立公園「竜串ビジターセンター」整備 (R2.3 月オープン) ・県立足摺海洋館「SATOUMI」整備 (R2.7 月オープン) ・県立足摺海洋館「SATOUMI」の集客 (プロモーション) 活動の活性化に向けた外部人材の活用 (R2) →産振補助金外部人材活用支援事業 (事業費：720 万円) <p>◆地域でのクラスター形成を促進する事業者間連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜串海洋観光クラスター推進協議会発足(H30.4 月) (構成員・・・高知県観光開発公社ほか竜串地域の観光事業者、環境省土佐清水自然保護官事務所、土佐清水市、県など) ・推進協議会において 4 モデルプロジェクトを設定 (H30) ・産振アドバイザーを活用して、レスト竜串に地元の素材を生かしたメニュー 2 品を新たに開発 (H30：2 回) ・ランチマップの作成 (R2) 	<p>◆竜串地域利用計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産振アドバイザーを活用して、竜串東側地域の整備計画を策定 (R 元：3 回) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スノーピーク土佐清水キャンプフィールド利用者数 R 元 (4～12 月)：5,137 人 ・事業者間の連携意識の醸成 ワークショップ等の開催 3 回 (R2) <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の事業者やガイド等が主体となった誘客のさらなる取り組み ・3 つの新施設 (キャンプフィールド、ビジターセンター、新足摺海洋館) を核とした、体験プログラム等を楽しみ、地域を周遊し、宿泊につなげ、滞在時間を延ばす仕組みづくり

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
<p>◆新たな観光施設を核とした、事業者間連携による誘客の仕組みづくり</p>	<p>施設を核とした、誘客の仕組みづくり及び実践</p>			<p>誘客の仕組みの拡大実践</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐清水市観光協会、竜串地域観光事業者：施設を核とした体験プログラムの実施、施設周辺の観光施設・体験プログラムが連携したセットプログラムの実施、イベント実施、着地型旅行商品の造成及び磨き上げ ●土佐清水市：土佐清水キャンプフィールド、ビジターセンターの運営施設運営事業者と地域の観光事業者等への橋渡し ●県（地域本部等）：新足摺海洋館 SATOUMI の整備及び運営、観光拠点整備補助金等によるソフト及びハード面の取り組みの支援、自然&体験キャンペーン等と連動した全国への情報発信 			<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)土佐清水市観光協会、竜串地域観光事業者：体験プログラム及びセットプログラムの磨き上げ、イベントの拡大実施、着地型旅行商品の磨き上げ ●土佐清水市：土佐清水キャンプフィールド、ビジターセンターを核とした体験プログラムの磨き上げ ●県（地域本部等）：新足摺海洋館 SATOUMI の運営観光拠点整備補助金等によるソフト及びハード面の取り組みの支援種支援制度に関する情報提供 	
<p>◆地域でのクラスター形成を促進する事業者間連携</p>	<p>クラスター協議会における連携強化</p>			<p>クラスター協議会の取り組みを市内全域への拡大</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●竜串海洋観光クラスター推進協議会：各部会（①ツアー参加者向けの限定グッズ制作、②施設・事業者・ガイドによる研修等、③地域内を周遊を狙ったイベント開催等、④海のギャラリーの活用等）での事業者連携による取り組みの推進、各部会とイベント実行委員会との連携強化 ●土佐清水市：協議会への参画によるアドバイス ●県（地域本部等）：協議会への参画によるアドバイス、情報提供、関係機関への橋渡し 			<ul style="list-style-type: none"> ●竜串海洋観光クラスター推進協議会、土佐清水市：各種取り組みで蓄積された集客ノウハウ等を市内全域の観光施策に拡大 ●県（地域本部等）：協議会への参画によるアドバイス、情報提供、関係機関への橋渡し 	
<p>◆竜串地域利用計画の推進</p>	<p>竜串利用計画の推進</p>			<p>竜串利用計画に基づいた、新たなハード及びソフト事業の検討・実施</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市：竜串エリア利用計画策定、竜串東側整備（駐車場、売店施設整備等） ●県（地域本部等）：観光拠点整備補助金の活用支援、計画策定協議の場への参画を通じた助言 			<ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市：利用計画に基づく、新たなハード及びソフト事業の検討・実施 ●県（地域本部等）：事業検討にあたって産振アドバイザーの活用提案、各種支援制度に関する情報提供 	

AP 名 (実施地域)	No.39 土佐清水まると戦略観光の展開 (土佐清水市) ※地域産業クラスター関連 (土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)
実施主体	◎土佐清水市、(一社)土佐清水市観光協会、土佐清水ジオパーク推進協議会
AP への 位置づけ	H22.4月
事業概要	観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、体験型観光や国際観光等の誘客促進の強化と受入態勢の整備・充実に取り組むとともに、「日本ジオパーク」の加盟認定により、ジオツーリズムをさらに推進し、滞在日数の増加や消費の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
入込客数	65.7万人 (H30)	66.5万人		75万人

集計期間：1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザーを導入し、観光事業者による新商品の開発 (H28：5回) 及びイベントへの集客力向上 (H28：5回) を実現 観光スタンプラリーの実施 (H28～) H30 から自然体験型プログラムを追加 漁船タクシーの運航開始 (H28～) レンタルサービス開始 (H28～) H28～自転車、キャンプ用品、H30～シーカヤック、マリフポート追加 ジョン万次郎資料館リニューアルオープン (H30.4月) →H29 観光拠点整備補助金の活用 (事業費:1億7,597万円) ジョン万デニムプロジェクト特別企画展の開催 (H30) 唐人駄場でスターウォッチングイベント開催 (H30) PR 動画作成 (R元) <p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 土佐の観光創生塾等の人材育成のための勉強会や研修会の受講 土佐清水市観光マスタープラン策定 (H28) 足摺宇和海国立公園足摺岬エリア利用計画を進める会の実施 (R2：5回) 	<p>◆日本ジオパークネットワーク加盟によるさらなる誘客促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ジオパーク推進協議会の設立 (H27.2月) 日本ジオパークネットワーク加盟申請 (H29.5月及びH30.5月) ジオガイドの養成 (H28～R2) 産業振興アドバイザーを導入し、ジオツアーの磨き上げ (H29:2回) 及びジオストーリーの構築 (H29:2回) を実施 <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ジョン万資料館入場者数 H27：9,805人 → R元：15,831人 ジオガイド登録者数 H26：0人 → R2：28人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源のさらなる磨き上げ 中心市街地・竜串・足摺の全域に周遊を促す体制づくり 日本ジオパークネットワークへの加盟実現

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆誘客の促進	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">地域の自然、歴史、食といった資源の磨き上げと誘客促進</div> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市： 「足摺藪椿再生プロジェクト」の継続実施、スターウォッチングの磨き上げ、「足摺きりり」（キャンドルライトアップ）の秋冬観光資源としての磨き上げ、ジョン万次郎資料館及び四国 88 か所を核とする歴史資源による誘客促進 インバウンド観光誘客のための受入環境のさらなる充実（案内板、パンフレット、通訳ガイド等） ●（一社）土佐清水市観光協会： 周遊を促進させる体験メニューの充実、HP、SNS を活用した情報発信の強化、ジョン万次郎資料館での集客力のあるイベント開催及びイベントを呼び水としたツアー誘客 ●観光事業者： スターウォッチング、唐人駄場を活用した宿泊客の夜間観光メニューの実施、官民共同による旅行会社等への営業展開 ●県（地域本部等）： 観光拠点整備補助金の活用支援、産振アドバイザーの活用支援、情報提供、関係機関への橋渡し </div>				
◆推進体制の強化	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">観光マスタープランに沿った、足摺・竜串・中心市街地が連動した誘客促進及び観光人材育成</div> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市： 中心市街地・竜串・足摺の全域に周遊を促す仕組みの検討 唐人駄場の利活用の検討 ●（一社）土佐清水市観光協会： 県等が実施する、観光人材育成研修への地域の事業者の参加 ●県（地域本部等）： 産振アドバイザーの活用、情報提供、関係機関への橋渡し </div>				
◆日本ジオパークネットワーク加盟によるさらなる誘客促進	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ジオパーク認定</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">ジオツーリズムの推進及びガイド等人材の育成</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市（推進協議会）： ジオネットワーク加盟申請、現地審査対策、加盟会員相互の情報共有、マスコミを通じたPR ●県（地域本部等）： 推進協議会への参画を通じた助言、産振アドバイザーの活用、情報提供 </div> <div style="border: 1px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px; width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ●土佐清水市（推進協議会）： ジオ加盟後のジオ会員間のネットワーク強化、知名度アップのための情報発信強化、竜串ビジターセンターを拠点とするジオツーリズムの推進、ジオガイドの育成及びスキルアップ、ジオツアーの造成、ジオサイト解説板の新規整備等による受入態勢の充実、市民へのジオパークのさらなる普及啓発 ●県（地域本部等）： 推進協議会への参画を通じた助言、観光拠点整備補助金等の活用による受入体制整備の支援、産振アドバイザーの活用、情報提供 </div> </div>				

AP名 (実施地域)	No.40 四万十市の地域資源を活用した通年・滞在型観光の推進 (四万十市)
実施主体	◎(一社)四万十市観光協会、四万十市
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期（秋・冬）にも誘客できる通年型観光に取り組むことにより、宿泊者数の増加を図るとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
公共観光施設利用者数	143,785人 (H30)	146,798人	101,172人	170,000人

集計年度1～12月

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域の特性、資源をいかした体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十川花紀行整備事業（トンボ自然公園ほか） (H28～) ・土佐の観光創生塾の受講（H28～R元） <p>◆誘客の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントの開催 ・予土線でのサイクルトレイン四万十号の運行(H28～) ・四万十川バス、トローバス運行、四万十・足摺エリア周遊観光バスしまんと・あしずり号の運行（H28～） <p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市観光振興連絡会議の開催 「四万十川花紀行行事」イベント、クリスマスの河川敷ライトアップ運営等 ・西土佐観光推進協議会の開催 観光ツアーの企画・実施、西土佐地域観光周遊パンフレットの作成等 ・予土県境地域連携協議会の開催 広域連携サイクリングイベントの開催、予土線を活用したサイクリングのPR等 ・産業振興アドバイザー（課題解決型）を活用したインターネット・SNSを用いた情報発信（R2） 	<p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十市への入込客数 H27：117万3,511人→R2：100万4,630人 ・公共観光施設利用者数 H30：14万3,785人→R2：10万1,172人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ニーズ多様化への対応 ・自然体験型観光の推進 ・閑散期対策 ・観光人材の育成、確保

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆地域の特性、資源をいかした体験型プログラムの造成・磨き上げ	自然体験型観光の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 四万十ひろばオートキャンプ場の整備、しまんとリバーベキュープロジェクトの推進、既存拠点施設の改修や拡充 ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案、その他、各種支援制度に関する情報提供 				
◆誘客の促進	周遊・滞在しやすい環境の整備				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 二次交通の充実、多言語化など観光案内機能の充実、一元的な情報発信の促進、Wi-Fi環境の整備 ●県（地域本部等）：観光人材育成や観光情報プラットフォーム等に関する情報提供 				
	観光特使等人脈の活用				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 著名人の協力による観光PR事業の実施、四万十市にゆかりのある団体のスポーツ合宿誘致の強化 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報提供 				
◆推進体制の強化	連絡会議等のさらなる活性化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 四万十市観光振興連絡会議、西土佐観光振興連絡会議の開催、予土県境地域連携事業や四万十リバーアクティビティ連絡協議会等の支援 ●県（地域本部等）： 各種会議への参画、各種支援制度に関する情報提供 				
	観光人材育成によるおもてなしサービスの充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)四万十市観光協会、四万十市： 観光人材の発掘と育成、アドバイザー派遣による課題解決のための支援、研修等の実施や参加促進 ●県（地域本部等）： 研修等に関する情報提供 				
<p>【用語】 しまんとリバーベキュープロジェクト：日本バーベキュー協会、イベント企画会社等のサポートのもと、四万十市からバーベキュー文化を発信し、日本のバーベキューの聖地化を進めることにより観光誘客を促進し、産業振興を図るもの。バーベキューインストラクターの育成、本格的なバーベキューができる場所づくり（カヌー館など）、地元の一次産品を活用したバーベキュー商品の開発などを展開する。</p>					

AP名 (実施地域)	No.41 大月町の地域資源を活用した観光振興 (大月町) ※地域産業クラスター関連(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト)
実施主体	◎大月町観光協会、◎大月町、町内事業者・関連団体
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	柏島や町内各所キャンプ場など大月町の強みである自然・体験滞在型等観光を推進し、食や花、歴史文化や景観も観光資源として磨き上げることにより、年間通して誘客できる魅力ある観光地域づくりに取り組む。また、事業者等との連携により町内周遊観光の促進を図るとともに、周辺観光資源も絡めた広域的な周遊の構成に取り組み、滞在交流人口の増大と地域の活性化を目指す。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
入込客数	5.3万人 (H30)	5.5万人		7万人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆自然・体験滞在型等観光の推進と地域資源の観光活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竜ヶ浜キャンプ場の整備 (H24.3月) →H23 産振補助金の活用 (事業費 1億 1,896万円) ・産業振興アドバイザーを導入して、観光ガイド会の設立 (H29:5回) ・体験型プログラム(備品等)の整備 (H31.3月) →H30 観光拠点補助金の活用 (事業費 865万円) ・大月エコロジーキャンプ場の施設改修 (R2.3月) →R元観光拠点補助金の活用 (事業費 2,164万円) ・秋の自然体験イベントの開催 (R2.9~11月) →R2 国立・国定公園への誘客の推進事業の活用 <p>◆誘客促進と周遊観光の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を活用した観光情報の発信 (H28~) ・産業振興アドバイザーを導入して、観光客の属性や消費額等のデータ収集・分析 (R元:5回) ・大月エコロジーキャンプ場がキャプテンスタッグ(株)と提携 (R2~) 	<p>◆推進体制の強化・受入環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾の受講 (H28~) ・柏島観光情報発信センターの整備 (H31.3月) → H30 地方創生交付金等活用 (事業費 7,127万円) ・産業振興アドバイザーを導入して、観光協会中期計画を策定 (R2: 3回) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド登録者数 H28 : 0人 → R元 : 5人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な観光施策の展開 ・周遊観光の促進 ・観光消費額の町内全体への波及 ・町内各所キャンプ場の稼働率の向上

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6以降
◆自然・体験滞在型等観光の推進と地域資源の観光活用	観光資源の磨き上げ、体験プログラムの造成及び観光ガイドの育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、町内事業者等： 自然・体験型観光資源の磨き上げ、ガイド育成・ガイドプログラム拡充 ●大月町：自然・体験型観光資源の磨き上げ、キャンプ場等の施設整備 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報・活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援、研修会等の紹介 				
	大月町の資源を活用した地域観光の推進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、大月町、町内事業者等： 食や花、歴史文化や景観など、様々な町内の地域資源を活用し、年間を通して観光客が訪れる仕組みの構築 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報・活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援、講演会等の紹介 				
◆誘客促進と周遊観光の取り組み	プロモーション活動・SNS等を活用した情報発信				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、大月町：効果的なプロモーション施策の実施 ●大月町観光協会：観光案内所及びSNS等情報発信ツールの充実強化 ●県（地域本部等）：各種支援制度に関する情報・活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援 				
	効果的な周遊観光の取り組み				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、大月町、町内事業者等： 町内事業者及び関連団体との連携を強化し、広域的な観光資源を活用した周遊観光に向けた仕組みの構築 ●県（地域本部等）： 各種支援制度に関する情報・活用支援、産業振興アドバイザーの活用支援、関係機関への橋渡し 				
◆推進体制の強化・受入環境の充実	推進体制の強化・受入環境の充実				
	<ul style="list-style-type: none"> ●大月町観光協会、大月町： 町内外関係機関（者）間の情報共有、観光動態等調査・分析（観光統計） ●大月町観光協会、町内事業者等：観光人材のスキルアップ・育成 ●大月町：来訪者の満足度向上のための受入環境の充実 ●県（地域本部等）： 会合への参画によるアドバイス、講座等の紹介、各種支援制度の情報・活用支援、関係機関への橋渡し 				

AP名 (実施地域)	No.42 三原村の魅力をいかした滞在型・体験型観光推進 (三原村)
実施主体	◎三原村、◎(一社)三原村集落活動センターやまびこ、三原村商工会
APへの位置づけ	H21.4月
事業概要	豊かな自然環境のもと村内の農家民宿・農家レストランや濁酒特区の取り組み等を活用した滞在型・体験型観光を推進するとともに、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組み、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
入込客数	1.62万人 (H29)	2.37万人		2万人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域の特性、資源を活用した滞在型・体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光アドバイザーを導入して、地域資源を活用した観光プログラムの造成、磨き上げを実施（H30.8月～H31.3月） 産振アドバイザーを導入して、地域資源を活用した観光プログラムの造成を実施（R元.10月） 観光プログラムの運用開始に向け、体験モニターを実施（R2.7月） ヒメノボタンの里交流棟・遊歩道の整備（R2） <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域食材を活用したメニュー開発に向け、シェフを招へい（H29.2月） 村内外でのイベントで誘客促進を図るため、三原村のPR動画を作成（H31.4月～R2.3月） コロナ対策アドバイザーを導入し、コロナ禍におけるカフェ運営のノウハウを習得（R2.10月） <p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光アドバイザーを導入して、体験プログラム実施に向けたノウハウを習得（H30.1～3月） 高知県観光拠点等整備事業を活用し、星が丘公園の基本構想を策定（H30.10月） 	<ul style="list-style-type: none"> 土佐の観光創生塾を受講し、観光振興のノウハウを習得（H30～R元） 農村集落活性化支援事業を活用し、SNSの活用促進に向け、アドバイザーを招へい（H31.3月） Facebook「三原村星ヶ丘公園／ヒメノボタンの里」の開設（R2.4月） <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域観光ガイド数 H26：0人 → R元：4人 村内新体験プログラム開発 H31：2件 → R元：3件 やまびこカフェ来客者数 H28：10,192人 → R元：13,119人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 主要催事のマンネリ化の解消 体験プログラムの造成及び磨き上げ さらなる交流人口拡大に向けた誘客促進 農泊交流施設の運営体制の構築

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域の特性、資源を活用した滞在型・体験型プログラムの造成・磨き上げ	地域資源を活用した体験プログラムの造成及び地域観光ガイドの育成				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村：体験プログラム及び地域観光ガイドの掘り起こし、アドバイザーの招へい、観光事情等の情報収集、地域観光ガイドへの勉強会等の情報提供 ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ：三原村の観光案内、観光客と体験プログラム実施主体との橋渡し、体験プログラムの運営、SNS等を通じた情報発信、観光事情等の情報収集 ●県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用提案、土佐の観光創生塾等の講座の紹介 				
◆誘客促進の取り組み	農泊交流施設及び庭園の管理運営				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村：指定管理者の決定、HPの開設、施設及び庭園を活用した体験プログラム等の検討 ●県（地域本部等）：産振アドバイザー等の活用提案、土佐の観光創生塾等の講座の紹介 				
	ヒメノボタンの里の観光案内所等の設計・整備・管理体制の構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村：ヒメノボタンの里公園整備検討委員会を通じた意見交換、観光案内所整備、駐車場整備、遊歩道等整備 ●三原村商工会：委員会を通じた意見交換、四万十かいどう推進協議会三原支部への支援、ヒメノボタンの里めぐりの運営 ●県（地域本部等）：委員会への参画によるアドバイス、産業振興アドバイザー等の活用提案、情報提供 				
◆推進体制の強化	観光案内及び情報共有体制の確立				
	<ul style="list-style-type: none"> ●三原村：三原村商工会及び(一社)三原村集落活動センターやまびこの情報共有体制の確立、アドバイザー等を活用した情報発信のスキルアップ、マスコミを通じたPR ●県（地域本部等）：産振アドバイザーの活用提案、観光創生塾等の講座の紹介、情報共有会議への参画によるアドバイス 				
<p>【用語】 ・SNS：「Social Networking Service」の略。インターネットを通じて個人間の幅広いコミュニケーションを支援するサービスのこと。代表的なSNSとしては、Facebook などがある。</p>					

AP 名 (実施地域)	No.43 黒潮町の地域資源を活用した観光推進 (黒潮町)
実施主体	◎(特非)NPO 砂浜美術館、◎(一社)黒潮町観光ネットワーク、黒潮町
AP への 位置づけ	H21.4月
事業概要	黒潮町の豊かな自然環境のほか、道の駅や体験観光施設などの観光資源を活用した体験型観光の推進や、防災学習プログラムを中心とした教育旅行の誘致に加えて、幡多地域全体で連携して誘客促進に取り組むことにより、交流人口の拡大を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R 元	R 2	R 5
(1) 入込客数	99.3 万人 (H30)	101.5 万人		100 万人
(2) 町内の延べ宿泊者数	22,538 人 (H30)	21,864 人		25,369 人

これまでの主な動き	
<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の観光創生塾の受講 (H28～) ・若山楮紙漉きを体験プログラムとして造成 (H29.7月) ・ホエールウォッチングにおける乗船者の安全確保のための施設・備品整備 (H29.8月) →H29 遊漁船等振興事業費補助事業活用 ・外国人旅行者をターゲットにした鰹のタキづくり体験メニュー造成 (H29.12月) →H29 産振アドバイザー活用 (1回) ・ハーバリウム作り体験プログラム造成 (H30) ・MICE 誘致に向けたモニターツアーの実施 (R元) ・砂浜トレーニングプログラムの作成 →R2 産振アドバイザー活用 (5回) <p>◆誘客促進の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ割引」を実施し、スポーツ合宿客を一般観光に誘客 (H30～) ・スポーツ合宿誘致にあわせて一般観光 PR を実施 (R元～) ・黒潮町観光プロモーション動画作成 (R元) 	<p>◆推進体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町観光ネットワーク設立 (H26) ・(特非)NPO 砂浜美術館が日本版地域 DMO を取得 (H30.12月) ・黒潮町観光ネットワークに専任の事務局長を配置 (H31.4月) ・防災ツーリズム・一般観光の取り組み強化 →R2 外部人材活用支援事業活用 ・黒潮町観光ネットワーク一般社団法人化(R2.9月) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験入込客数 H30 : 8,456 人 R元 : 8,510 人 ・イベント入込客数 H30 : 70,575 人 R元 : 77,552 人 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・滞在時間延長や複数の観光資源をリンクさせた観光商品造成 ・防災学習プログラムを主軸とした MICE の受入推進 ・黒潮町の認知度をあげるための情報発信 ・データ収集・分析に基づく観光戦略の実施 ・ワーケーションの受入体制整備

第4期計画における行程表					
主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆地域の特性、資源を活用した体験型プログラムの造成・磨き上げ	地域資源の商品化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(特非)NPO 砂浜美術館：新たなイベントや体験プログラムの実施を検討 ●黒潮町観光ネットワーク：防災視察のメニュー造成・MICE 誘致、連携プランの造成推進、AT ツアー造成検討 ●県（地域本部等）：土佐の観光創生塾の案内、観光関連施策の情報提供 				
	周遊の促進				
	<ul style="list-style-type: none"> ●黒潮町観光ネットワーク：周遊キャンペーンの実施、周遊を促進し消費効果を高める仕組みの構築、宿泊につなげる夜型イベントの検討 ●県（地域本部等）：高知県観光コンベンション協会や幡多広域観光協議会との連携 				
◆誘客促進の取り組み	プロモーションの強化				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(特非)NPO 砂浜美術館：イベントを通じての情報発信、各種広報活動 ●黒潮町観光ネットワーク：PR（動画活用等）の強化、情報発信の基盤整備、旅行会社へのセールス強化、モニターツアーの実施、セールスツールの作成 ●県（地域本部等）：高知県観光コンベンション協会や幡多広域観光協議会との連携、産振補助金（ステップアップ事業）の活用提案 				
◆推進体制の強化	観光地域づくりの推進（マーケティング、基盤整備、人材育成等）				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(特非)NPO 砂浜美術館：マーケティング調査・分析及び戦略策定、観光事業者の育成 ●黒潮町観光ネットワーク：キャッシュレス決済環境導入の推進、WiFi 環境の拡大、OTA 掲載の推進 ●県（地域本部等）：関連施策の情報提供 				
	体制強化・自立運営体制の構築				
	<ul style="list-style-type: none"> ●(特非)NPO 砂浜美術館：DMO 体制基盤強化、情報収集、計画に基づいた取り組みの実践及び見直し ●黒潮町観光ネットワーク：法人化の検討、関連事業者の意見集約、計画に基づいた取り組みの実践及び見直し ●県（地域本部等）：産振補助金（外部人材活用事業）の活用提案、関連施策の情報提供 				
<p>【用語】・NPO：「NonProfit Organization」の略。政府・自治体や私企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで社会的な公益活動を行う。</p> <p>・MICE：Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentivetour（報奨・招待旅行）、Convention または Conference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語でビジネストラベルの一つの形態。</p> <p>・DMO：「Destination Management Organization」の略。観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。</p> <p>・OTA：「Online Travel Agent」の略。インターネット上で取引を行う旅行会社のこと。</p> <p>・AT：「Adventure Tourism」の略。アクティビティ、自然、文化体験の3要素のうち、2つ以上で構成される旅行のこと。</p>					

AP名 (実施地域)	No.44 集落活動センターやまびこによる三原村の産業振興 (三原村)
実施主体	◎(一社)三原村集落活動センターやまびこ、(農)三原やまびこ
APへの位置づけ	H30.4月
事業概要	特産品の開発及び販売、並びに一次産業の振興等を地域一体となって総合的に進めることで地域の活性化を図る。

指標	出発点	実績		目標
		R元	R2	R5
売上高	1,207万円 (H30)	1,525万円		1,700万円

※指標について、第3期までは「コインランドリー、やまびこカフェ及びししとうの売上高」としていたが、第4期からは「地域産品及びししとうの売上高」に変更

これまでの主な動き

<p><これまでの取り組みの内容></p> <p>◆新商品開発及び販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理体制の強化に向け、HACCP研修を受講(H30.8月) ・付加価値向上に向け、特産品の成分分析及び保存検査を実施(H30～R2) ・どぶろくの販売促進に向け、酒類販売業免許の取得及びどぶろくの取扱い開始(R元.5月) ・土佐MBA会計コースを受講し、会計の基礎知識を習得(R元.6月) ・うちんくのビジネス塾を活用し、ふるさと納税及びブランディング戦略のノウハウを習得(R元.7～12月) ・県内各地でのイベントの実施及び参加(H30～) ・県内の商談会に出展(R元～) ・オンラインショップ「ししとう家族商店」開設(R2.9月) <p>◆一次産業の振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米のブランド化に向け、食味計を導入(H30.8月) ・三原米ブランド化研究会の発足(H31.3月) ・ブランド米の販売促進に向け新潟県の先進地視察を実施(R元.10月) ・県産米ブランド化推進事業を活用し、販売促進に向けたパッケージデザインを作成(R元.10月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信及び付加価値向上に向け、米・食味分析鑑定コンクール及びお米日本一コンテストに出品(R元～R2) <p><主な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発 H29:0品 → R元:2品 ・取引件数 H29:0件 → R元:4件 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる販路拡大に向けた新商品開発及び販売促進 ・三原村の情報の県内外への発信と事務局の体制強化 ・生産及び加工体制の強化に向けた設備整備
--	---

第4期計画における行程表

主な取り組み	R2	R3	R4	R5	R6 以降
◆ 新商品開発 及び販売促進	販路拡大に向けた基盤づくり			販路拡大	
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 販売促進用グッズ作成、研修会等での商談ノウハウの習得、情報収集、商談会への出展 ●県（地域本部等）： セミナー・商談会等の紹介、関係者への橋渡し 			<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 県内外への販路の開拓（地域産品を取り扱う飲食店等の確保） 	
◆ 一次産業の 振興	新商品開発		商品のプロモーション活動		
	<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： コンセプトづくり、試作品づくり、市場調査（消費者の意見集約）、製造方法等の検討、商品改良、商品化の実現 ●県（地域本部等）： 試作品づくりへのアドバイスを得るための産振アドバイザーの活用提案、産業振興総合補助金（ステップアップ事業を含む）の活用可能性検討、その他各種支援制度に関する情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 商談会等への出展、一次産品と一体のプロモーション活動の実施 ●県（地域本部等）： 高知県地産外商公社への橋渡し支援 		
	ブランド米の実証実験		ライスセンターの整備		
<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 生産協力農家の拡大、土づくり資材の検討、土壌調査の実施 ●県（地域本部等）： 情報提供、関係機関への橋渡し、その他各種支援制度の紹介 		<ul style="list-style-type: none"> ●(一社)三原村集落活動センターやまびこ： 三原米ブランド化研究会と関係機関とでライスセンターの整備に向けた情報共有、事務局体制の整備強化 ●県（地域本部等）： 活用可能性のある支援制度の検討、その他、各種支援制度に関する情報提供 			
ししとうの栽培・出荷					
<ul style="list-style-type: none"> ●(農)三原やまびこ：地域住民の生きがいづくりの一環として、JA 高知県へのししとうの安定出荷 ●県（地域本部等）：ししとう栽培に関する技術指導、情報提供 					
<p>【用語】 ・ライスセンター：「米粉共同乾燥調製施設」のこと。収穫した生の粉や乾燥不十分の粉を火力乾燥、粉摺り、袋詰めするための施設。</p>					